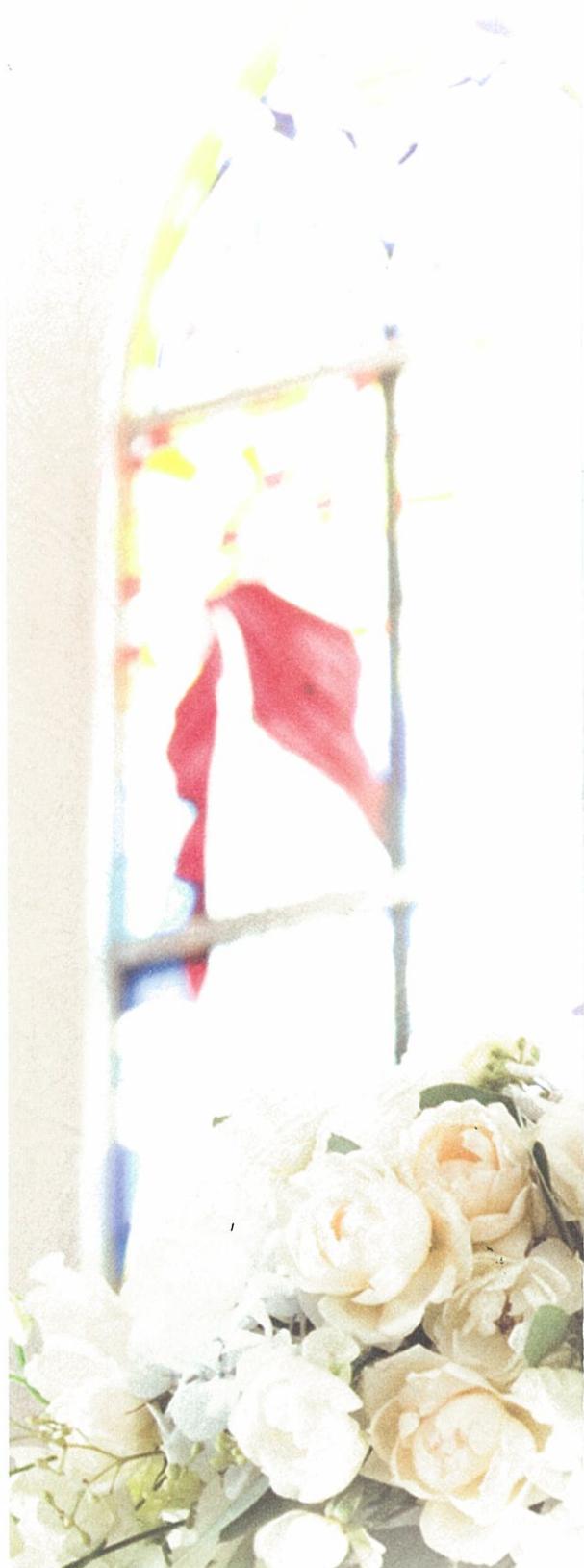


The annual report
2009

2009.1.1▶2009.12.31

医療法人 セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所



目次

卷頭言	1
一年を振り返って	
医局	3
心理専門相談室	4
看護部	6
研究室・培養室	8
受付	10
情報処理室	12
厨房	14
診療統計	
外来患者および妊娠結果の内訳	16
外来・入院数	18
入院数	19
妊娠数	20
初診後妊娠までの期間	24
腹腔鏡検査後妊娠までの期間	24
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率	25
ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠	25
35歳未満・体外受精1回目の妊娠率	26
ART(生殖補助医療)による妊娠	27
ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況	27
異常児の詳細	28
セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ	30
行事一覧	31
論文一覧	42
著書(共著)一覧	42
院内活動	
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	44
スタッフ配置	47
病院概要	48

卷頭言

宇津宮 隆史

早いものでセント・ルカ産婦人科を開設して 18 年が経過した。患者数は 18,000 人、妊娠数は 5,500 件（2010 年 5 月現在）を超えた。今春は、大分駅南口に新しい病院の建設を開始する。来年の今頃は、新病院が稼動しているであろう。これも、われわれのやるべきことは何かという一点に絞られた結果、大分県の赤ちゃんを望む人たちへ、できるだけ最大限の援助を行うという原点に基づくものである。

さて、それらの結果、生まれることは何か。それは患者さんの「新しい家族」であろう。生殖医療は、年々、というより半年毎に発展している。そのすさまじい勢いで進んでいる医療と技術の結果、著しい妊娠成功率を上げられていることは確かである。しかし、その「妊娠率」という一点だけにわれわれは眼を向けているだけでいいのであろうか。今、これだけ進んだ医療を推進していくことができるようになって、今一度、本来のわれわれの目標を考えてみると、患者さんの「幸せな家族」形成であることに気づく。それであれば、われわれの医療で生まれてきた子供たちへの配慮はできているか。

まず、その精神的・肉体的健康度はどうか。この点では本当に反省すべき状態といえる。生殖医療で生まれた子の健康調査は、1997 年に生まれた児の 5 歳時の調査が 2005 年に日本受精着床学会により、817 名の児について行われ、ほぼ満足いく結果であったが、注意すべき点も見つかった。しかしその後、同様の調査は行われていない。これは、われわれが責任を持って行うべき重要な項目のひとつといえよう。今年度から、厚生労働省の科学研究費を受けて慶應義塾大学 吉村泰典教授を中心に、生殖医療で生まれた子供 3,000 人の 15 歳までの健康調査が始まる。これが成功すると世界的にも例の無いほどの結果が得られるものと期待できるし、それによって日本の生殖医療の実力が示され、患者さんにも、また、世界的な学会レベルでも輝かしい成果になるといえよう。それはそのまま、この医療の安全性、確実性、正確性を保障し、患者さんも、またその子供も安心して医療を受けられる環境が整うことであろう。

また、さらに、非配偶者間生殖医療にも言及しなくてはならない。非配偶者間については以前から話題に上っているが、その解決策、対応策はいまだ理想的なものがない。JISART では画期的な計画を実行し、その結果、非配偶者間体外受精を 1 年前にを行い、2 人の子供が生まれている。これに対して、JISART として、今後 80 年は責任を持って対処することを明言している。同様に「第三者の関わる生殖技術について考

える会」の方たちの、意見・気持ちも大切にしたい。自分が AID で生まれたことを偶然に知った人たちが今、6 名存在する。実は今まで日本では 2 万人ほどの人が AID によって生まれているはずであるが、ほぼ全員がその事実を知らされていない。この 6 人の方々の気持ちをお聴きして、われわれの行っている生殖医療とは何か、もう一度考え直さねばならないと思っているし、またそれが本来の生殖医療の方向を示すものになるとも思う。

われわれ生殖医療従事者の目的は、患者さんとその医療・技術で生まれてくる子の本当の幸せである、ということをもう一度確認したい。



一年を振り返って

医局

セント・ルカ産婦人科で診療を行うようになって、早、4年が過ぎました。この1年は、少しづつ外来で患者さんと向き合ってお話しする機会も増え、2009年12月から、月・金曜日の午後に河邊外来を開かせていただいています。4月からは、水曜日も診療させていただくことになり、セント・ルカ産婦人科に期待して来院される患者さんに、レベルの高い医療を提供できるよう、宇津宮院長指導の下、もっともっと勉強して知識と技術を磨かなくてはと思っています。

学生時代、外科医を目指していた私は、救急科、内科、小児科、麻酔科などを体験し、最終的に産婦人科を選びました。産婦人科医1年目の健和会病院では、救急搬送が多く、生殖医療はごく少数でした。大分医科大学での4年間は、産婦人科全般をバランスよく勉強させていただきました。その後、子育て中のパートタイマー時代は、産科患者と更年期治療を中心だったので、今、セント・ルカ産婦人科で仕事をしていて、あらためて生殖医療の難しさ、面白さを感じているところです。

産科では、合併症がある方、胎児に問題がある方に対して、妊娠後から治療がスタートするのですが、生殖医療では、もともとハイリスクな患者さんが多く、今妊娠することがその患者さんにとって良いのか、というところから、頭を悩ましています。私自身の倫理観、人生観を問われるようで、身の引きしまる思いがします。

そして現在、腹腔鏡下子宮筋腫核出術を勉強しています。これまで子宮筋腫は開腹して核出していましたが、何度か福岡山王病院へ手術の見学へ行かせていただき、議論を重ね、2010年2月22日、院長執刀で一例目の腹腔鏡下筋腫核出術を施行しました。術前は、時間がかかる、創部の縫合が難になってしまい、小さい筋腫が残ってしまうのでは、と気になっていましたが、術後の患者さんの回復の早さ、2nd look laparoscopy 時の癒着の少なさを見ると、腹腔鏡下手術をもっと増やしていきたいと思います。一例目の患者さんはその直後に自然妊娠され、近頃胎児心拍も確認できました。

腹腔鏡下筋腫核出術をするにあたって、忙しい院長の代わりに看護部のスタッフが器具をそろえたり、メーカーとの折衝をしたりと、忙しい勤務の合間に準備を進めていくのを見ていると、セント・ルカ産婦人科の底力を感じます。看護部だけでなく、すべてのスタッフがみな、学会の準備、新しい器械や院内システムなどの導入準備、薬剤や研究室の管理などに責任を持って携わっていて、いつも感心します。実は自分が一番何もできていないのではないかと反省しています。

来年には新しいセント・ルカ産婦人科が、場所を変えて誕生することになりました。宇津宮院長と、頼もしいスタッフとともに私もよりいっそう努力したいと思います。

河邊 史子

一年を振り返って

心理専門相談室

この1年間は、生殖医療の現場で起こっていることの多様性に、私たちはどのように対処していったら良いのか、そもそも子どもを望むとは、子どもを持つとは、家族を作るとはどういうことなのかを改めて考えさせられる年であったように思います。

不妊症患者さんの心理的サポートの重要性が広く認められ、生殖医療心理カウンセリング学会認定の不妊相談士、生殖心理カウンセラーの数も増えてきました。当院でも新たに看護師1名が2010年4月に認定を受け、4名の不妊相談士と1名の生殖心理カウンセラーが活動しています。

日々患者さんと接する中で、妊娠判定がマイナスだった時や体外受精のキャンセル時、流産の疑いがある時など、患者さんにとって「良くない知らせ」をどう伝えるか、伝えた後のフォローをどうするかは難しい問題です。2010年1月に開催された「日本生殖医療心理カウンセリング学会 第7回学術集会」では、そのことについて、医師、看護師、胚培養士によるパネルディスカッション、「医療現場でのコミュニケーションスキル：悪い知らせをどう伝えるか」が取り上げされました。ここでは、日常の業務でどうしても避けて通ることのできない場面での、それぞれの立場からの苦しさと、工夫が語られました。悪い知らせを伝える側の苦しさを聞いたのは初めてでした。今までは「患者さんのために」という視点だけしかありませんでしたが、その医療に携わる医療者の心にも焦点を当て、チームとしてお互いを理解し合い、支え合って、患者さんを支えていくことが大切だということを改めて実感しました。スタッフのメンタルヘルスも心理士の仕事として考えていく必要があると感じ、今後取り組んでいきたいと思います。

一方、生殖医療に関わる心理士の間では、不妊や子どもを持つこと、家族を形成することについて、より深く、色々な角度から考えていこうとする動きが出てきました。

当院で行われた第16回セント・ルカセミナーでは、広島大学大学院教育学研究科教授岡本祐子先生に「子どもに恵まれないことの心理臨床『予期せぬ人生の危機』をどう受けとめるか」との演題でご講演いただきました。「結婚したら子どものいる家庭をもつ」というのは、子どものころから当たり前のこととして心に描いている場合が多く、不妊は、重い病気に罹ったり、事故で障害を負ったり、愛する人に先立たれたりすることと同じように「予期せぬ人生の危機」であり、心理臨床的なケアが重要な意味をもつとのことでした。患者さんに共感し、「心に寄り添う」こと、不妊治療をする前の自分と今の自分の一貫性をつなぎ、不妊治療を終えた後も、不妊治療前の自分に戻るのではなく、何かが変わり、成長・発達・変容していることを確認することが重要であり、そのためにも心理臨床的ケアは欠かせないものであるとのお話は、大変示唆に富む内容で深く心

に残り、日々の臨床をより充実したものにしていかなくては、と身の引き締まる思いを強くしました。

また、最近では、他の分野で働く臨床心理士の中でも、少しずつ生殖医療における心理臨床に対する関心が広がってきたように思います。セント・ルカセミナーにも多くの臨床心理士が参加してくれましたが、2009年9月には依頼をいただいて、大分県の臨床心理士会主催の定例研修会で「生殖医療現場の心理臨床と当院の取り組み」について発表させていただきました。一般的な臨床現場でも、不妊や不妊治療、不妊治療後の子育てなどがクライアントの悩みの背景に潜んでいることは十分にありえることですので、不妊や生殖医療に対する理解を深めていただくことは、患者さんにとっても大切なことだと思っていました。そのような意味で、県の臨床心理士の集まりで発表する機会をいただいたことは、大変ありがたいことでした。一人でも多くの心理士がこの分野に興味をもってくくれることを願っています。

また、治療をしてもご夫婦二人の子どもさんに恵まれない患者さんは、治療を終えた後、ご夫婦二人の生活を送っていく方がほとんどだと思われますが、養子を育てていこうとする方もおられます。非配偶者間の生殖医療を選択される方もおられるかもしれません。当院では行っていませんが、JISARTでは、姉妹、友人間の卵子提供による体外受精によって、すでに子どもが誕生しています。この子どもたちとご家族が本当に幸せな生活を送ることができるために、私たちは何をしなければならないのか、今こそ真剣に考えなければいけない時期だと思います。心理の立場からも非配偶者間生殖医療に対しても、深く学び、目を放さずに取り組んでいく必要があると思っています。

来年2011年3月には当院の心理専門相談室も開設10周年を迎えます。子どもを授かりたいと思い、治療に取り組んでおられる患者さんの状況や悩みは様々です。不妊治療が夫婦の絆を深め、子どもができても、できなくても、治療後の生活が充実した幸せなものとなりますよう、これからも患者さんの心に寄り添い、少しでもお役に立てるよう努力していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

上野 桂子



一年を振り返って

看護部

2009年は、永く続いた自民党政権から民主党への政権交代があり、「変化」の年となりましたが、当院の看護部においても大きな変化の年となりました。

第一に、2009年初め、看護部の中心的な存在であった若き副師長の退職がありました。その大きな穴を埋めることは容易なことではありませんでした。一人一人が自分のレベルアップに努め、患者さんに向き合った看護師である事とし、ミスを起こさないためにダブルチェックの徹底、毎朝のナースミーティングでは、注意の必要な患者さんの情報交換や伝達事項の徹底を強化して、全員の力で今まで以上に質の良い看護の提供が行えるように業務を行ってまいりました。

第二の大きな変化は、昨年末に当院の開院当初から勤務し、院長をはじめ、全職員から信頼の厚い看護師長の退職です。これまで各部署との連携を図り、手術室業務を全部受け持ちはながら、ミスを起こさないように取り仕切り、看護部を指導していただきました。師長の退職にあたり、不安ばかり大きくなり、押し潰されそうなプレッシャーを感じていました。他の看護師も同じ気持ちだったと思います。しかし、毎日の業務は待ってくれません。とにかく何事にも一生懸命、かつ丁寧に業務を行うことで、今は少しずつではありますが自覚と自信につながってきています。2010年に入り、新しく若い2名の主任が誕生し、各自が「適材適所」で責任をもって連絡・確認をとりながら看護部の新しい体制が出来つつあります。

第三の変化は、若手の成長を挙げたいと思います。当院では毎年、看護師全員がそれぞれの課題に向けて看護研究に取り組んでいます。2010年1月24日、第7回日本生殖医療心理カウンセリング学会で「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」の演題で発表をしました。「夫」に在宅注射を施行してもらうことにより不妊治療に関心を持つことができ、夫婦で治療を共有するよいきっかけになったという結果が得られました。今後の課題として、夫婦同席のもと、安心・安全に注射を行えるよう個別指導を充実させていきたいと考えています。発表者は入職3年目で看護師としての経験も浅く、毎日の業務をこなすだけで精一杯だったと思いますが、患者さんと接し、たくさんの関わりを持つことで大きく成長することができたと考えられます。看護研究に取り組むことは、患者さんのケアのためばかりでなく、看護師の成長もたらすことが再確認できました。今後の看護部の一層の向上と活躍に期待したいと思います。

第四の変化として、当院では年間約 30 例の子宮筋腫核出術を開腹手術にて行っていましたが、新たに腹腔鏡下子宮筋腫核出術を行うことになりました。それにあたり 2009 年 9 月より数回にわたり福岡山王病院へ手術の見学へ行かせていただきました。器械出しの順番や看護師の配置、必要物品などを確認しました。必要な使用器具や各種医療機械の選定・配置を院長の指示のもと、医療機器担当者と何度も何度も打ち合わせを行ながら準備を進めました。そして、2010 年 2 月 26 日、福岡山王病院副院长中村元一先生にご来院、ご指導を賜り、当院で本格的に腹腔鏡下子宮筋腫核出術がスタートしました。患者さんにとっては床上安静の期間が短く、創部痛の軽減につながり、入院期間も短縮されています。

第五の変化は 2010 年 1 月より女医の河邊史子先生が常勤となり月曜日、金曜日の午後 1 時 30 分～3 時 30 分まで午後の診療が開始され、4 月からは水曜日も診療可能となりました。一般の不妊治療・更年期・思春期・婦人科の患者さんが対象となっていますが、診療時間の拡大により、患者さんにとっては、より通院しやすい環境になったと思います。看護業務もこれまで午後からは手術を中心でしたが、診療と平行して行われることになり、看護師の配置も考えながら、時間に追われること無く、事故のないよう努めていきたいと考えます。

そして最も大きな変化として、2011 年春、大分市中心部への新築移転に向けて、院長の指揮のもと、患者さんへ優しい病院、職員が働きやすい病院を目標に計画が進行しています。各部所で設計士を交えて何度も意見を出し、それが形になっていくことで自分たちが新病院を作っていくのだという意識が高まってきています。新病院に向けて、職員一丸となって取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、今年は私自身にとっても大きな変化をむかえた年となりました。院長やスタッフの皆さんとの御協力と時間をやりくりした甲斐あって、看護師として大きなハードルを何とか越えることができ、今後の看護業務を行う上で大きな財産となりました。この 1 年に積み重ねた努力と経験を生かし、スタッフ全員に還元していきたいと思います。これからも患者さんのために出来ることを考えながら、看護師全員で力を合わせていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

篠田 多加子



一年を振り返って

研究室・培養室

研究室のこの1年を振り返ると、安定した1年だったと感じています。安定という言葉は、停滞というイメージもあり、あまり好きな言葉ではないのですが、「もっと、妊娠率をあげるために…」「もっと、安全な医療を提供するために…」といった気持ちを、研究室のスタッフ7人全員が意識し、日々何らかの改善について討論する姿が常にみられ、結果として安定した安全な医療を提供できたと感じています。

2010年2月に東邦大学で開催された、第13回胎児遺伝子診断研究会に参加した際、東邦大学の片桐由紀子先生が、特別講演にて生殖補助医療におけるインプリント異常にについてのお話をされていました。東北大学准教授 有馬隆博先生と共同研究を行った当院の研究結果をたくさん引用して下さっており、安全な医療を提供したいという私たちの思いが、一つ実を結ぼうとしているのを感じました。2008年のアメリカ生殖医学会で学会賞を受賞した胚呼吸量の研究（山形大学教授 阿部宏之先生との共同研究）は、その後も着実に研究を積み重ね、2010年のヨーロッパ生殖医学会でもさらなる結果を発表予定です。

また、精子の空胞の有無とDNA断片化についての研究発表「精子頭部の空胞と精子DNA断片化に関する検討」が、第27回日本受精着床学会学術講演会において、世界体外受精会議記念賞候補にノミネートされました。この研究は、他施設との共同研究ではなく当院で独自に進めている研究であり、今後ますます解析を深めていきたいと思っています。

私事ではありますが、2009年に着床前診断をテーマとした論文により博士号を取得することができました。10年前より準備を行ってきた着床前診断も、いよいよ臨床として稼働し始めました。2010年はさらに2人が大学院に入学し、晴れて女子大生（女子は余計ですが…）になりました。

しかし、良い意味での安定と思っている一方で、やはりこの言葉はあまり好きではないと思われる院長より、更なる発展を！！！と新病院への移転の話があり、これから的一年は大きな飛躍の年となりそうな予感がしています。これまでのルーチン業務や患者さんとのコミュニケーション、他部署とのチーム医療をより快適に合理的に行うことができるようになると、私たちの提案を大いに設計に取り入れていただいています。交通の便も良くなるので患者さんも心待ちにして下さっていると思いますが、私たちも開院を待ち遠しく思っています。

今年は久しぶりに研究室にも新入職員を迎えました。教育・推進委員が作成した「教育チェックリスト」を初めて一から運用するようになります。胚培養士として顕微授精まで一通り業務ができるようになるには約2年かかりますが、技術的な面と合わせて、培養士としての高い意識や倫理観を養ってもらいながら、セント・ルカ産婦人科を訪れる患者さんの目的と私たちの目的が達成できるように素晴らしい胚培養士になってもらいたいと思います。研究室の平均年齢も若くなつたことですし、私たちもマンネリ化に陥らず、新人から刺激を受けて、心機一転、今年も一年頑張ろうと思います。

大津 英子



一年を振り返って

受付

この1年も、とても学ぶべきことの多い有意義な1年ありました。

2009年5月、第2回JISART事務部門教育セミナー・第7回JISARTシンポジウムに参加させていただきました。昨年に引き続き、2回目の参加となりました。事務部門教育セミナーでは、21施設、39名が集まり、活発なテーブルディスカッションが行われました。私たちのテーブルでは、「事務部の質向上のための取り組みについて」というテーマで話し合い、新人教育・電話応対・接遇に関してなど、他施設の状況を詳しく伺うことができました。今回のシンポジウムでは、「待ち時間に対するクレーム」と題して発表がありました。患者さんの待ち時間は当院でも悩みの一つですが、他施設の待ち時間を感じさせない様々な取り組みを伺うことができました。その後、当院に持ち帰り、待ち時間の調査を行い、処置・注射の待ち時間が長いことがわかりました。この結果をふまえ院内で検討し、看護師の勤務体制を変え、少し改善が出来たように思います。

2009年7月、院長から突然の爆弾発言。大分駅南口に病院を移転するとの事でした。予想していなかった事で、スタッフ一同それは驚きました。その後、新病院に向か、福岡山王病院の施設見学へ行かせていただきました。とても大きな病院で圧倒させられましたが、新病院の雰囲気を感じる事ができ、受付内の機能、流れなどを部署内で充分話し合い、検討していくかなければならないとつくづく感じた施設見学でした。

次に、予約システムの導入に向けて大分市内の産婦人科を見学させていただきました。その後、院内で話し合い、業者にデモンストレーションをしてもらい、自分たちで操作性の確認を行いました。完全予約制にする事により、患者さんの待ち時間の短縮、スタッフが来院患者さんの診療内容をより早く把握できるようになり、業務がスムーズに行えるようになります。現状を見ていますと夢のような感じがします。予約システムの導入に向けてはまだ検討段階ですが、メリット・デメリットを充分に考え、当院にあった最高の予約システムが出来るように各部署連携して、打ち合わせを重ねています。

2010年1月、女医の河邊先生が常勤になりました。月曜日、金曜日の午後1時30分～午後3時30分まで、一般不妊治療・思春期・更年期・婦人科外来の患者さんを対象に診療が始まりました。河邊先生の優しい診察が好評で、この時間は気持ち的にゆっくりした時間が流れます。4月からは水曜日も診療を行うことになり、患者さんの生活スタイルに合った診療時間の選択が可能になったのではないかと思います。

2010年2月、JISART施設認定審査・審査員研修に参加させていただきました。今年は事務部門が初めて審査に参加するということもあり、事務部門の方が多く参加されていました。審査に関して、①業務内容がはっきりしている事の再確認、②業務内容がオーバーラップしていないか、③審査を通じて、クリニックをよく見て、自院にアイデアを持ち帰る事により、更に良い業務が行なわれていく事がポイントだと教えていただきました。

2010年5月には、仙台で開催されます第3回JISART事務部門教育セミナー・第8回JISARTシンポジウムに参加させていただきます。今年も他施設の状況を詳しく伺って、今後の受付そして事務部門運営の糧にしていけたらと考えています。

最後に2009年度の不妊治療助成金の総件数が出ましたのでご報告いたします。

2009年7月より、大分県の助成額が1回の治療につき10万円から15万円に引き上げられ、8月より、豊後大野市が従来の助成に加え、一般不妊治療の保険適用分に限り5万円を限度に通算5年間の支給が追加、10月より、大分市が2回目申請の助成額が10万円から15万円に引き上げされました。

	人数	申請回数	助成金額
大分県	72	126	18,140,720
大分市	205	312	55,582,900
他県	8	10	1,500,000
県と市両方	52	57	13,726,440
大分市以外	4	5	410,680
合計	341	510	89,360,740

2009年度に助成金を申請した341名（申請回数：510回）のうち、16名（18回）はIUI（人工授精）、325名（492回）は高度生殖補助医療を受けられています。

越名 久美



一年を振り返って

情報処理室

2010 年の晴れやかな新年を迎える、梅の時期、桃の時期と待ち遠しかった花の季節が巡り、心躍る桜の季節が到来しました。

メディアで桜の開花予想が聞かれる頃になると、この年報の作成作業と、当院の開院記念行事である、セント・ルカセミナーの準備が本格的に始まります。情報処理室スタッフ 3 名のうち、2 名が年報作成作業として、院内データ整合性のチェック、入力ミスの訂正、再集計、各文章のチェック、当院の一年間の活動内容の見直し等忙しい日々を過ごす中、1 名が院長指示のもと、セント・ルカセミナーの準備を進めていきます。

情報処理室が本格的に 3 人体制で動き始めて丸 3 年が経過し、業務分担がはっきりしていく中で、2009 年度は新サーバー導入、Oracle11g、初めてのバックアップソフト導入により、未経験によるトラブルも発生しました。業務分担がはっきりした分、メリットも大きかったのですが、分担外でトラブルが発生した場合、対処が難しいというデメリットが大きく露見してしまいました。ただ、この経験により、3 人ともが同じ考えを持ち、苦手分野に向かう努力を行える事ができました。考えの及ばなかった部分に気がつくようになったり、業者任せであった部分のマニュアルを作成したり、問題点解決のため深い内容でのディスカッションを進められたのは、私達にとって、何よりも幸せな経験であり、情報処理室の結束を強め、果敢に挑戦しようという意欲の向上に繋がりました。

業務分担は意外に難しく、苦手分野に関しては全くノータッチということにもなりえます。情報処理室の場合、看護部や研究室・培養室のように学会参加等の学びの機会を得ることができません。しかし、私達が使うパソコンの OS はころころとシステムが変更され、新しい技術が次々に導入され、ウイルスの問題についても、Web から感染するだけでなく、外部メモリからも簡単に感染するような時代になり、常に新しい知見・知識を求められます。

当院でも、院内データベースシステムの SarahBase を Windows7、Oracle11g に対応化するにあたり、プログラム本体は SE が作成するとしても、SE の仕事は導入支援までで、その後は私達が管理を行うことになります。管理をする以上、相手を理解しなくては、また同じトラブルを抱えてしまうことになりかねません。最新知見を求め、本を読み漁り、インターネットで情報を集めても、机上の情報だけではなかなか難しく、自分の取り組みに限界を感じ、教えを請う事ができない辛さと共に、世代交代という言葉が重く肩に圧し掛かった 1 年でした。

当院の新築移転が決定し、来年の桜の頃には、新しい施設の引越し準備に追われているかもしれません。それまでに情報処理室ではとても大きな仕事を 3 つ抱えています。

1. 患者さんが待望している「予約システム」の導入
2. 複数台稼動を目標とした「会計システムの再構築」
3. 各部署から要望が出ている「バーコード化・ペーパーレス化に対する SarahBase 改変」

院長の計画している大きなハードの中に、上記の大きな大きな 3 本のソフトを納めるべく、各部署の IT 委員と詳細な打合せをしながら、医療業界とソフトウェア業界の通訳として、それぞれの考え方の違いや言葉の壁を低いものにし、スタッフの思いや考えを全て受け止めて、わかりやすい仕様依頼書にできるように努めなくてはなりません。

医療業界とソフトウェア業界には意外に大きな壁が立ちふさがっています。私達が常識として考えていることが通じない場合や、またその逆も然りです。「そんなつもりではなかった」「指示がなかったから」「やってくれると思っていた」システム改変や新規構築では、両者間のトラブルで良く出る言葉です。今回の改変では、このような言葉を誰も言わなくて済むように、担当部署の IT 委員としっかり打合せを行う必要があります。

情報処理室はセント・ルカ産婦人科の 3F にあります。大きく開いた窓からは、高崎山、鶴見岳、由布岳がその美しい山並みを季節の表情に変えて魅せてくれます。陽が沈む頃になると、鶴見岳のロープウェイの淡い光が美しく輝きはじめます。生殖補助医療棟 3F 多目的ホールからは、森岡の丘にある小学校の桜並木が青空に映えて、美しい姿を見せてくれます。忙しい一年となりそうですが、季節を感じる心をなくさないように、この一年が足早に過ぎ去ってしまわないように、そして、次の桜の季節には、素晴らしい最高のシステムと大きな自信を持って、新しく美しいセント・ルカ産婦人科で仕事ができるようになりたいと思っています。

工藤 由香



一年を振り返って

厨房

この1年を振り返るとあつという間でした。

2009年はノロウィルスや鳥インフルエンザ、新型インフルエンザなどいろいろと流行し、普段以上に感染に気を付けなければならず、少しの油断も許されないような時期が長かったのを思い出します。

厨房でも、特に衛生管理に気を付けました。

ちょうど保健所からの立入検査が行われる年だったので、今一度見直しをする良い機会となりました。

2009年12月から患者さんへ退院時のアンケートを取り始めました。

決して充実した内容とはいひ難いのですが、患者さんからいろいろな意見を頂いています。

中でも『おいしかったです』の一言は大変嬉しいものです。

「あ～良かった～」と胸に手を当て、ホッとします。

今でも折りたたまれた用紙を開けるまでのそのドキドキ感は続いています。

普段、患者さんと直接接する事のない私達ですので、患者さんの意見を目にしてることができて業務に対する充実感が増えてきました。

少しずつですが、貴重な意見をこれからの調理の参考としていきたいと思います。

2010年は新病院に向け、慌てることのないよう、しっかりととした基盤を作つておかなければいけないと考えております。

矢野 千恵美



診療統計

外来患者および妊娠結果の内訳

(2009.12.31 現在)

1. 当院の患者数

1) 開院(1992.6.3) ~ 本年(2009.12.31)までの外来患者数

18,827 人

(内訳) 男性	6,565 人 (34.9%) (平均年齢 33.7 才)
正常	3,263 人 (49.7%) 未検査・未診断 234 人 (3.6%)
異常	3,068 人 (46.7%)
女性	12,262 人 (65.1%) (平均年齢 31.2 才)
・ 女性	9,418 人 (76.8%) (平均年齢 31.3±4.5 才)
・ 妊娠件数	5,400 件 (平均年齢 31.8±4.2 才)
・ 妊娠に至らなかつた女性	4,720 人
2) 妊娠率(患者あたり)	49.9% { (9,418 - 4,720) / 9,418 }
3) 治療を途中で諦めた女性	4,304 人 (45.7%)
A) 諦めざるをえなかつた人(無精子症,早発閉経,高齢など)	910 人 (9.7%)
B) いつの間にか諦めた人	3,394 人 (36.0%)
4) 実妊娠率(Aを除く患者あたり)	78.0% { (9,418 - 4,720) / 9,418 - (4,304 - 910) }
5) 実妊娠率(A,Bを除く患者あたり)	91.9% { (9,418 - 4,720) / (9,418 - 4,304) }

2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	3,985 例	(73.79%)
流産	1,137 例	(21.06%)
子宮外妊娠	153 例	(2.83%)
胞状奇胎	14 例	(0.26%)
中絶	1 例	(0.02%)
不明	110 例	(2.04%)
計	5,400 例	(100%)

3. 出産結果 (他院へ紹介済の 3,985 例中、妊娠結果が判明している 3,612 例について)

1) 妊娠結果

満期産	3,125 例	(86.52%)
満期産+死産*	2 例	(0.05%)
満期産+外妊*	1 例	(0.03%)
早産	361 例	(9.99%)
早産+死産*	8 例	(0.22%)
過期産	16 例	(0.44%)
死産	44 例	(1.22%)
流産	43 例	(1.19%)
流産+死産*	1 例	(0.03%)
奇形中絶	6 例	(0.17%)
人工妊娠中絶	5 例	(0.14%)
計	3,612 例	(100%)

* 双胎で 2 児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

単胎	3,281 例	(90.8%)	3,281 児
双胎	315 例	(8.7%)	630 児
品胎	16 例	(0.5%)	48 児
計	3,612 例	(100%)	3,959 児

3) 出生児の状態

正常	3,044 児	(76.9%)
低体重児	683 児	(17.2%)
異常(死産等含む)	232 児	(5.9%)
(うち奇形を含む主な異常)	(128 児)	(3.2%)
計	3,959 児	(100%)

4. 妊娠に至った主たる有効治療

ART(生殖補助医療)全体	2,141 例	(39.6%)
IVF-ET(体外受精)	643 例	(11.91%)
MF-ET(顕微授精)	770 例	(14.26%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	685 例	(12.69%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)	38 例	(0.70%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	5 例	(0.09%)
ART(生殖補助医療)以外	3,259 例	(60.4%)
IUI(選別精子子宮内注入法)	754 例	(13.96%)
hMG+hCG, Gn-RHa	524 例	(9.70%)
クロミフェン	437 例	(8.09%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	656 例	(12.15%)
HSG(子宮卵管造影法)直後	379 例	(7.02%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	363 例	(6.72%)
リンパ球免疫療法	15 例	(0.28%)
その他	131 例	(2.43%)
計	5,400 例	(100%)

(2009/12/31 セント・ルカ産婦人科)

外来・入院数 (2009.1.1~2009.12.31)

	入 院	外 来
1月	74	1,427
2月	141	1,953
3月	153	2,069
4月	66	1,551
5月	112	1,952
6月	113	2,066
7月	126	1,895
8月	141	2,109
9月	132	1,894
10月	88	1,604
11月	141	1,833
12月	127	1,659
合計	1,414	22,012

入院数 (2009.1.1~2009.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	19	17	23	14	9	8	16	18	19	9	8	12	172
子宮内容除去術 (流産のため)	6	3	9	7	4	4	3	3	6	7	5	5	62
子宮筋腫核出術	3	2	1	1	3	4	4	1	3	3	6	1	32
卵胞穿刺術	0	2	0	0	2	1	0	1	3	0	0	1	10
経頸管子宮筋腫切除術 (TCR)	0	2	4	1	0	1	2	2	1	3	1	2	19
子宮内膜搔爬術	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	0	1	7
腹腔鏡下 子宮外妊娠手術	2	0	0	1	0	3	1	1	1	0	0	1	10
開腹手術 (子宮全摘出術)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
卵巣腫瘍核出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合 計	30	26	37	24	18	21	28	29	34	23	20	24	314

	安静入院												
卵巣過剰刺激症候群	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	5
切迫流産安静	0	1	1	1	1	0	1	0	0	2	1	0	8
その他	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	4
合 計	0	2	2	2	1	0	2	2	2	2	2	0	17

	体外受精入院												
採卵	19	49	47	12	45	40	40	47	43	16	60	38	456
胚移植	9	34	28	6	17	19	26	27	17	13	29	21	246
凍結胚移植	16	30	39	22	31	33	30	36	36	34	30	44	381
GIFT,ZIFT,TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	44	113	114	40	93	92	96	110	96	63	119	103	1,083

入院総計	74	141	153	66	112	113	126	141	132	88	141	127	1,414
------	----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-------

妊娠数 (1992.6.3～1996.12.31)

	周期	1992	1993	1994	1995	1996
体外受精 胚移植	採卵	63	213	266	270	279
	移植	50	153	200	221	247
	妊娠	2 (4.0 %)	23 (15.0 %)	51 (25.5 %)	61 (27.6 %)	55 (22.3 %)
顯微授精 胚移植	採卵	0	33	167	246	239
	移植	0	20	130	210	222
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (5.0 %)	16 (12.3 %)	36 (17.1 %)	36 (16.2 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	0	5	7	20	52
	移植	0	5	7	19	52
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (14.3 %)	0 (0.0 %)	6 (11.5 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	2	43	30	17	8
	移植	1	42	30	17	8
	妊娠	0 (0.0 %)	10 (23.8 %)	10 (33.3 %)	5 (29.4 %)	4 (50.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	4	10
	移植	0	0	0	4	10
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (20.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	7	2	9	2
	移植	0	6	2	9	2
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (16.7 %)	0 (0.0 %)	1 (11.1 %)	0 (0.0 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	1	8	0
	移植	0	1	1	8	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	3 (37.5 %)	0 (0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	65	297	466	554	538
	凍結融 解周期	0	5	7	20	52
	移植	51	227	370	488	541
	妊娠	2 (3.9 %)	35 (15.4 %)	78 (21.1 %)	106 (21.7 %)	103 (19.0 %)

ART*以外の妊娠数	96	215	214	247	203
妊娠総数	98	250	292	353	306

*生殖補助医療

妊娠数 (1997.1.1～2001.12.31)

	周期	1997	1998	1999	2000	2001
体外受精 胚移植	採卵	329	282	253	154	119
	移植	276	225	224	121	93
	妊娠	54 (19.6 %)	48 (21.3 %)	62 (27.7 %)	37 (30.6 %)	41 (44.1 %)
顯微授精 胚移植	採卵	224	265	342	317	377
	移植	192	227	276	238	283
	妊娠	35 (18.2 %)	31 (13.7 %)	34 (12.3 %)	50 (21.0 %)	63 (22.3 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融解周期	90	122	107	170	195
	移植	88	121	93	153	140
	妊娠	15 (17.0 %)	29 (24.0 %)	23 (24.7 %)	32 (20.9 %)	48 (34.3 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	15	19	6	9	1
	移植	15	19	6	9	1
	妊娠	4 (26.7 %)	2 (10.5 %)	1 (16.7 %)	2 (22.2 %)	0 (0.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	3	11	4	10	1
	移植	3	11	4	10	1
	妊娠	0 (0.0 %)	2 (18.2 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	2	0	0	0	0
	移植	2	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	1	5	0	1	0
	移植	1	5	0	1	0
	妊娠	0 (0.0 %)	2 (40.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融解周期	1	2	0	0	0
	移植	1	2	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (50.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	574	582	605	491	498
	凍結融解周期	91	124	107	170	195
	移植	578	610	603	532	518
	妊娠	108 (18.7 %)	115 (18.9 %)	121 (20.1 %)	121 (22.7 %)	152 (29.3 %)

ART以外の妊娠数	177	177	153	169	169
妊娠総数	285	292	274	290	321

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

妊娠数 (2002.1.1~2006.12.31)

	周期	2002	2003	2004	2005	2006
体外受精 胚移植	採卵	172	139	103	62	98
	移植	123	100	69	38	48
	妊娠	41 (33.3 %)	36 (36.0 %)	25 (36.2 %)	17 (44.7 %)	20 (41.7 %)
顯微授精 胚移植	採卵	344	420	436	451	414
	移植	215	279	328	297	267
	妊娠	45 (20.9 %)	65 (23.3 %)	72 (22.0 %)	74 (24.9 %)	74 (27.7 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融解周期	255	238	218	249	251
	移植	171	185	187	234	240
	妊娠	48 (28.1 %)	37 (20.0 %)	47 (25.1 %)	54 (23.1 %)	57 (23.8 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融解周期	0	0	6	18	9
	移植	0	0	5	13	6
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	6 (46.2 %)	2 (33.3 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	1	1	1	0	0
	移植	1	1	1	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	0	0	1	0	0
	移植	0	0	1	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	2	6	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	517	560	543	519	512
	凍結融解周期	255	238	224	267	260
	移植	510	565	591	582	561
	妊娠	134 (26.3 %)	138 (24.4 %)	144 (24.4 %)	151 (25.9 %)	153 (27.3 %)

ART*以外の妊娠数	168	157	167	204	181
妊娠総数	302	295	311	355	334

*生殖補助医療

妊娠数 (2007.1.1~2009.12.31)

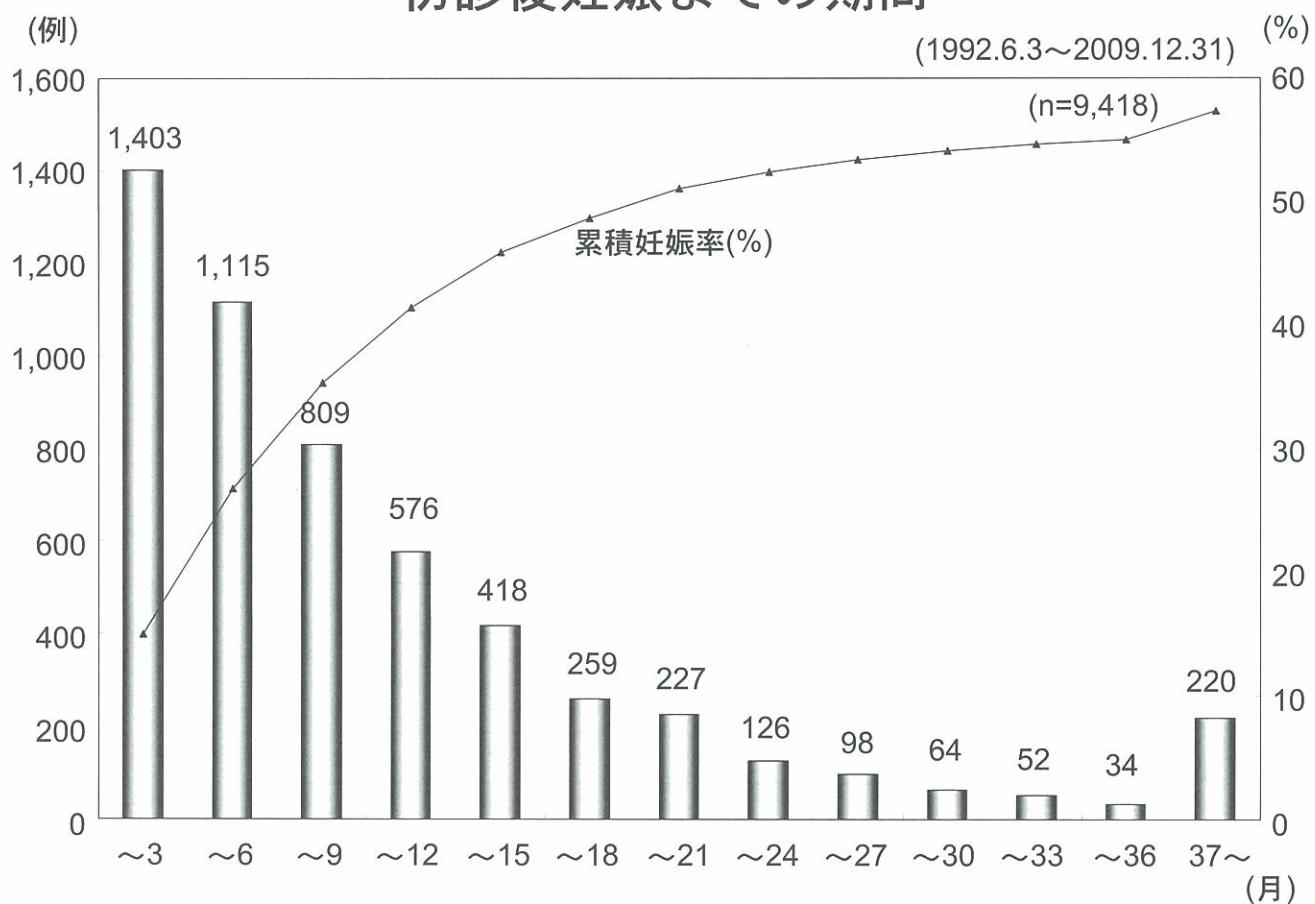
	周期	2007	2008	2009	合計
体外受精胚移植	採卵	155	111	90	3,158
	移植	89	58	34	2,369
	妊娠	36 (40.4 %)	20 (34.5 %)	12 (35.3 %)	641 (27.1 %)
顯微授精胚移植	採卵	424	386	360	5,445
	移植	237	208	212	3,841
	妊娠	58 (24.5 %)	37 (17.8 %)	38 (17.9 %)	765 (19.9 %)
凍結融解胚移植 (ICSI後凍結含む)	凍結融解周期	375	423	389	3,166
	移植	353	396	364	2,808
	妊娠	76 (21.5 %)	80 (20.2 %)	102 (28.0 %)	655 (23.3 %)
体外成熟培養後凍結融解胚移植	凍結融解周期	24	28	19	104
	移植	21	24	17	86
	妊娠	7 (33.3 %)	8 (33.3 %)	6 (35.3 %)	29 (33.7 %)
配偶子卵管内移植	採卵	0	0	0	153
	移植	0	0	0	151
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	38 (25.2 %)
接合子卵管内移植	採卵	1	0	0	44
	移植	1	0	0	44
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (11.4 %)
体外受精胚卵管内移植	採卵	0	0	0	22
	移植	0	0	0	21
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (9.5 %)
顯微授精胚卵管内移植	採卵	0	0	0	18
	移植	0	0	0	18
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (27.8 %)
凍結融解胚卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	3
	移植	0	0	0	3
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (33.3 %)
体外成熟培養体外受精胚移植	採卵	0	0	0	8
	移植	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	580	497	450	8,848
	凍結融解周期	399	451	408	3,273
	移植	701	686	627	9,341
	妊娠	177 (25.2 %)	145 (21.1 %)	158 (25.2 %)	2,141 (22.9 %)

ART [*] 以外の妊娠数	189	196	177	3,259
妊娠総数	366	341	335	5,400

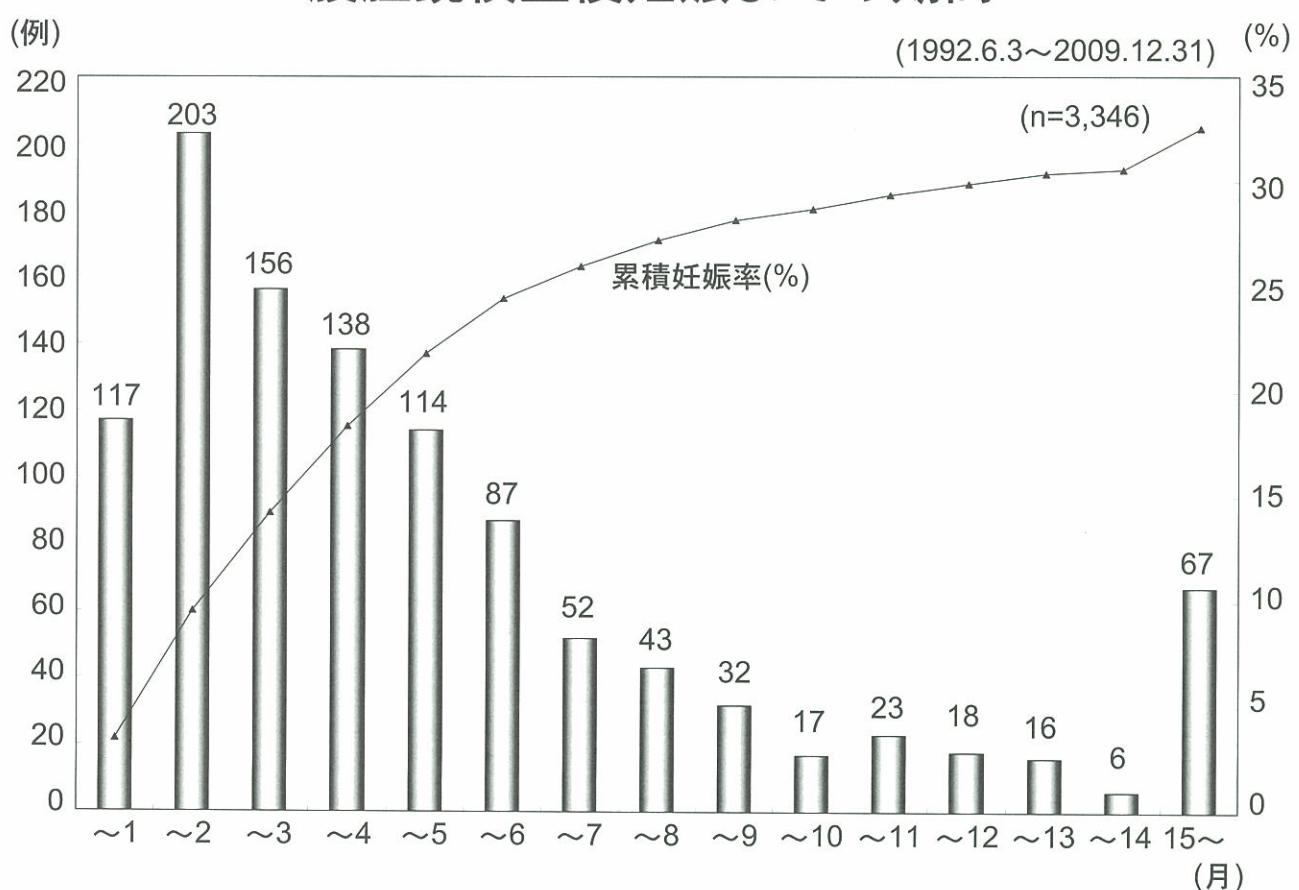
*生殖補助医療

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

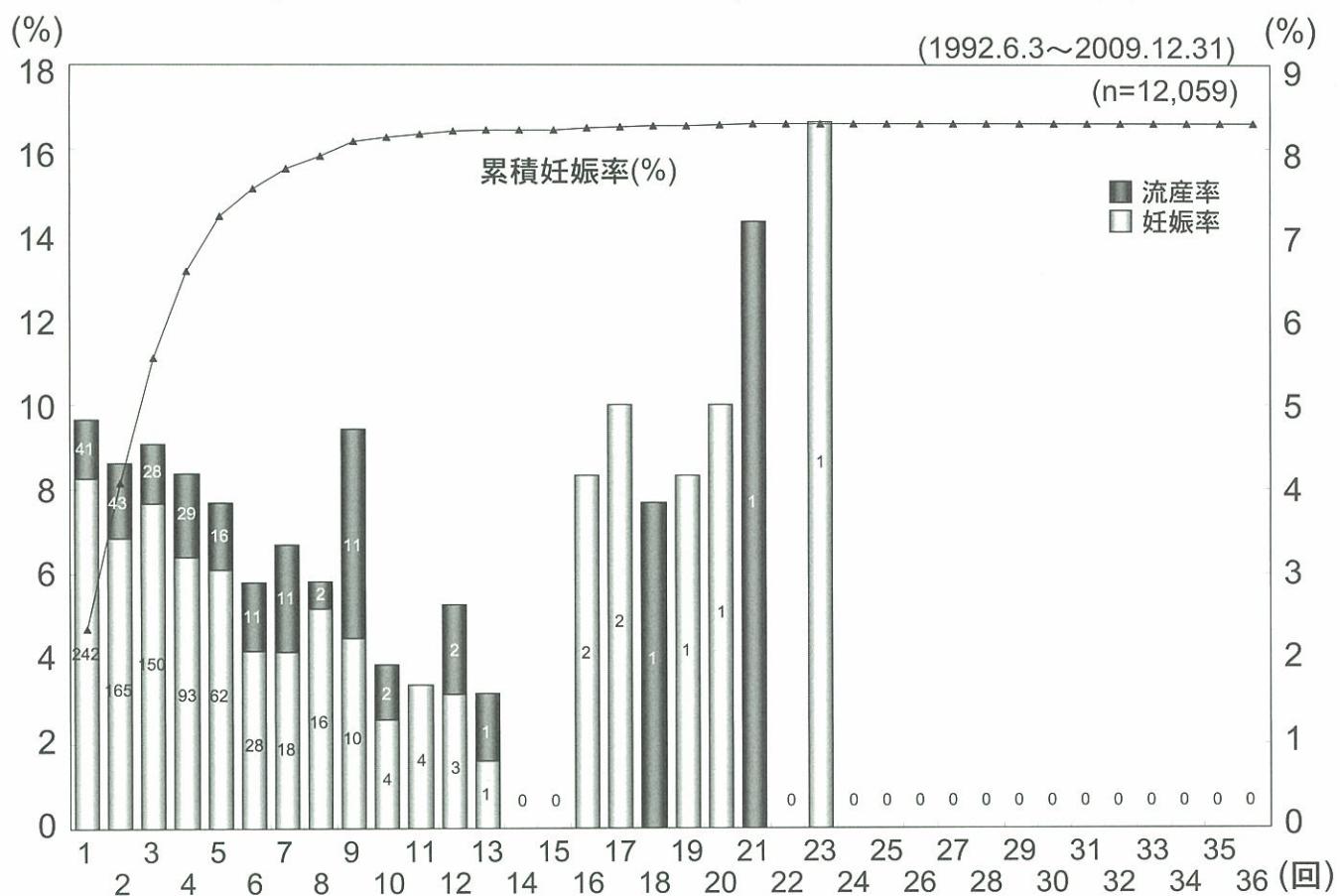
初診後妊娠までの期間



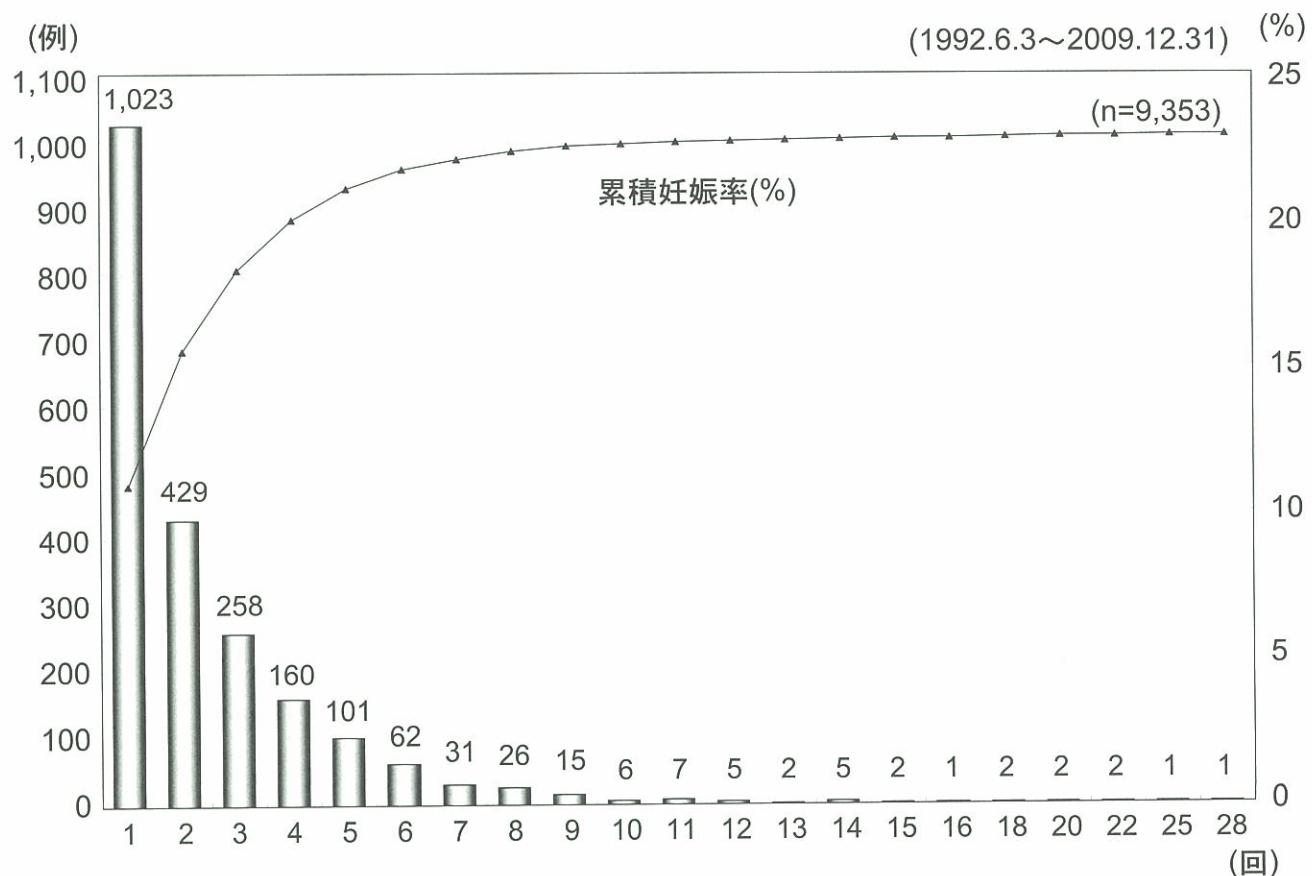
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



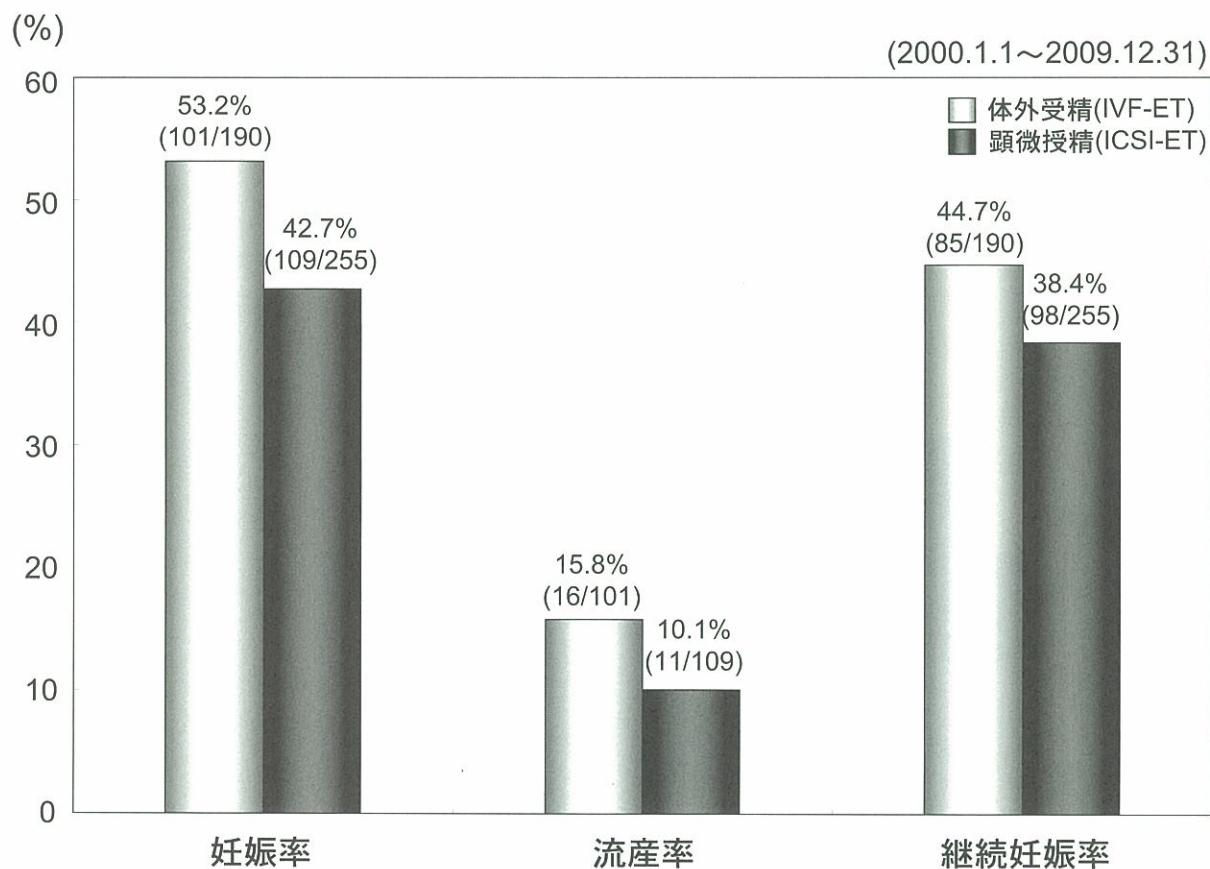
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率



ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



ART(生殖補助医療)による妊娠 1992.6.3～2009.12.31

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	3,180	2,390 (75.2 %)	643 (26.9 %)	159 (24.7 %)
MF-ET (男性因子 以外も含む) (ICSI)	5,471 5,036	3,859 (70.5 %) 3,761 (74.7 %)	770 (20.0 %) 759 (20.2 %)	225 (29.2 %) 220 (29.0 %)
GIFT	153	151 (98.7 %)	38 (25.2 %)	13 (34.2 %)
ZIFT	44	44 (100 %)	5 (11.4 %)	1 (20.0 %)
CRYO-ET	3,273	2,897 (88.5 %)	685 (23.6 %)	181 (26.4 %)
ART.total	12,121	9,341 (77.1 %)	2,141 (22.9 %)	579 (27.0 %)

ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況

(1992.6.3～2009.12.31)

出産周期	1,381周期	妊娠結果が判明している1,381周期に限る		
妊娠結果				
満期産		1,111周期 (80.45%)	死産	21 周期 (1.52%)
満期産、死産*		2周期 (0.14%)	流産	19 周期 (1.38%)
満期産、外妊*		1周期 (0.07%)	流産、死産*	1 周期 (0.07%)
早産		212周期 (15.35%)	奇形中絶	3 周期 (0.22%)
早産、死産*		6周期 (0.44%)	人工妊娠中絶	2 周期 (0.14%)
過期産		3周期 (0.22%)		
多胎妊娠について	1,621児	単胎	1,152 例 (83.4%)	1,152 児
		双胎	218 例 (15.8%)	436 児
		品胎	11 例 (0.8%)	33 児
低体重児	406児 (25.1%)			
異常児	125児 (7.7%)	うち奇形を含む主な異常		73児 (4.5%)

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

異常児の詳細 (1992.6.3~2009.12.31)

主な異常	128児	128児／3,959児(3.2%)		うちART [*] 児：73児／1,621児(4.5%) ART以外児：55児／2,338児(2.4%)	
		ART	ART以外	ART	ART以外
染色体異常		9児	5児	胎児水腫	3児
脳・神経系異常	10児	9児		腫瘍	1児
心臓・血管系異常	10児	15児		ヘルニア	2児
内臓疾患	6児	4児		停留精巣	1児
甲状腺機能低下症	2児	2児		関節異常	2児
縦隔気腫	1児	1児		手足形成異常	5児
胸郭低形成	1児	0児		四肢短縮症疑い	0児
外耳道閉鎖	0児	1児		小人症疑い	0児
先天性白内障	1児	0児		Cornelia de Lange症候群	1児
家族性滲出性硝子体網膜症	0児	1児		Russell-Silver症候群	0児
先天性鼻涙管閉塞	1児	1児		Sturge-Weber症候群	0児
小顎症	0児	1児		奇形中絶	3児
口唇裂・口唇蓋裂	9児	3児		出産後死亡	5児

*生殖補助医療

セント・ルカ産婦人科
1年のあゆみ

セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ

(2009.1.1~2009.12.31)

学会発表	47題
院長	9
看護部	22
研究室・培養室	16
学会講演会参加	34回
研修会	28回
論文	3編
著書（共著）	2編
主催講演	5回
セント・ルカセミナー	1 総参加人数 71名
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	4 総参加人数 260名
講演・講師	7回
院長	6
看護部	1
不妊カウンセラー活動	33回
新患教室	8 総参加人数 441名
体外受精教室	12 総参加人数 539名
ガーネットサークル	3 総参加人数 17名
オリーブの会	10 総参加人数 49名
院内講習会	3回
京都大学名誉教授、NPO 法人生殖再生医学アカデミア理事長 森崇英先生ご来院・ご指導	1回
高度生殖医療技術研究所所長 荒木康久先生ご来院・ご指導	1回
東北大学未来医工学治療開発センター准教授 有馬隆博先生ご来院・ご指導	1回

行事一覧(1)

- 2009 1.10 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
1.13 第 118 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
1.17 第 37 回新患教室 参加者 51 名 参加<深田、河野、足立直、指山>
1.18 第 6 回日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(大阪) 参加<城戸、後藤裕>
パネル・ディスカッション「こんな時どうする?@生殖医療の現場から」座長：院長
一般講演座長：上野桂子
ポスター発表：「ART 施設におけるサポートグループの看護師の役割」(松元恵利子)
「治療継続のサポートのあり方～初診時から半年以内～」(関こずえ)
(優秀演題賞受賞)
- 1.19 兵庫耐震工学研究センター施設見学(兵庫) 参加<城戸、後藤裕>
1.20 院内全体研修：料金表について(担当：受付)
1.24 第 141 回体外受精教室 参加者 57 名 参加<井澤、三重野、斎高>
1.24 第 5 回 2008 年度(第 2 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<小池>
1.25 第 6 回生殖看護学会九州地区勉強会(福岡) 参加<深田、足立直、工藤美>
1.27 院内全体研修：防災訓練(担当：受付)
1.29 ISO9001 リーダー研修会 日本エム・エム・シー 田中繁充氏ご来院
1.29 第 1 回大分県産婦人科臨床フォーラム(大分) 参加<院長>
1.31 第 5 回ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者 9 名
2. 6 徳島大学病院(徳島)桑原章先生 特定不妊治療費助成事業の実情視察のためご来院
2. 7 第 37 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 45 名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、工藤由、佐土原、西郡、深田、河野、足立直、後藤裕>
2.10 第 119 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
2.17 院内全体研修：胚移植の説明について(担当：研究室・培養室)
2.20 職員旅行(北海道組 第 1 班) 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、熊迫、
長木、井澤、松元、足立直、工藤美、越光、後藤裕、関、篠田、指山、河邊、事務長、院長>
2.20 職員旅行(関西組) 参加<別所、矢野、佐藤久、佐藤晶、河野、二宮、斎高、赤嶺>
2.21 第 6 回 2008 年度(第 2 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 面接官<上野>
参加<小池>
2.22 第 5 回 ART 生涯研修コース(東京) 参加<城戸>
講師：「anti-mullerian hormone(AMH)値と ART」(院長)
2.23 職員旅行(北海道組 第 2 班) 参加<岡田、深田、原井>
2.24 第 98 回大分県周産期研究会 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、越名、
佐藤久、小池、城戸、井澤、二宮、松元、足立直、工藤美、河野、越光、斎高、赤嶺、篠田、
指山、上野、院長>
発表：「ART 後の流産における原因のゲノムインプリントとの関係」(佐藤晶子)
「治療継続のサポートのあり方～初診時から半年以内～」(関こずえ)
2.26 醍醐渡辺クリニック(京都)胚培養士 野々口耕介先生 PGD 研修のためご来院
2.28 第 142 回体外受精教室 参加者 55 名 参加<井澤、三重野、斎高>
2.28 第 38 回ガーネットサークル OG1 名、参加者 8 名
3. 7 第 26 回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
3. 7 金沢医科大学生産周産期医学(石川) 富澤英樹先生研究のためご来院
3. 8 JISART 審査研修(東京) 参加<上野、院長>
3.10 第 120 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3.14 第 38 回新患教室 参加者 65 名 参加<足立直、河野、指山>
3.14 第 11 回第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 6 名

行事一覧(2)

- 2009 3.15 第4回日本生殖再生医学会・学術集会(東京) 参加<院長>
ポスター発表:「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性」(熊迫陽子)
「IVFにおける血清AMH値の検討」(長木美幸)
- 3.19 第7回日本予防医学リスクマネージメント学術総会(京都)
一般演題1座長:院長
発表:「当院における体外受精患者さんへの多胎防止に対する取り組み」(熊迫陽子)
「不妊治療施設における看護部のインシデントレポート」(後藤裕子/指山実千代)
- 3.21 第10回第5期オリーブの会 参加者2名
- 3.23 第20回日本発達心理学会大会(東京)
自主シンポジウム話題提供者:「生殖医療と家族の発達:非典型的な家族を生きる」(上野桂子)
- 3.28 第143回体外受精教室 参加者51名 参加<井澤、三重野、斎高>
- 3.28 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
- 3.31 院内全体研修: HBe 肝炎について(担当: 看護部)
- 3.31 院内全体研修(安全管理研修): ウィルス・個人情報漏洩の危険について(担当: 情報処理室)
4. 1 新職員 川村智恵さん(看護部)
4. 1 日本生殖医療心理カウンセリング学会 不妊相談士(不妊コンサルタント)認定<ラボ: 小池恵>
4. 4 第39回新患教室 参加者45名 参加<川村、深田、河野、後藤裕、指山>
4. 5 第61回日本産科婦人科学会学術講演会(京都) 参加<院長>
4. 7 第121回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 4.10 第29回大分市医師会産婦人科~内分泌・不妊・代謝~懇話会 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、越名、佐藤久、佐藤晶、熊迫、長木、川村、岡田、井澤、松元、二宮、越光、斎高、後藤裕、指山、上野、河邊、院長>
「体外受精成功三十余年後の今日考えること」
(生殖バイオロジー東京シンポジウム 代表 鈴木秋悦先生)
- 4.11 日本哺乳動物卵子学会常任理事会(東京) 参加<院長>
- 4.19 ISIVF 15th World Congress on In Vitro Fertilization &
4th World Congress on In Vitro Maturation (Geneva)
A PART Session Symposium3 「ART for Fertility Preservation」座長:院長
発表:「The current approach to oocytes vitrification for cancer patients in Japan」(院長)
ポスター発表:「Evaluation of serum Anti-Mullerian Hormone (AMH) level in the IVF」
(長木美幸)
「Infertility patient's mental health condition using the Cornell Medical Index」
(上野桂子)
- 4.25 第5回九州産婦人科内視鏡手術懇話会(福岡) 参加<熊迫、指山、河邊>
発表:「卵管采の大きさ、卵管口の位置と妊娠について」(院長)
- 4.26 第66回日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<足立小、越名、佐藤久、指山、河邊、院長>
第1群「心理・看護(1)」座長:上野桂子
発表:「精子頭部の空胞と精子DNA断片化に関する検討」(城戸京子)
「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性」(熊迫陽子)
「ART施設におけるサポートグループの看護師の役割」(松元恵利子)
「治療継続のサポートのあり方」~初診から半年以内~」(関こずえ)
- 4.28 院内全体研修: 教育チェックリスト運用について(担当: 教育・推進委員)
新職員 阿南志保さん(看護部)
5. 1 第144回体外受精教室 参加者44名 参加<阿南、川村、井澤、岡田、斎高>

行事一覧(3)

- 2009 5.5 第 122 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5.8 第 7 回日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(東京) 参加<院長>
5.8 第 50 回日本哺乳動物卵子学会(東京)
一般演題「ART(5) ICSI」座長：院長
発表：「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性」(熊迫陽子)(学術奨励賞受賞)
「IVF における血清 AMH 値の検討」(長木美幸)
- 5.16 第 40 回新患教室 参加者 52 名 参加<別所、阿南、川村、深田、足立直、河野、後藤裕、篠田、指山>
5.16 第 39 回ガーネットサークル OG1 名、参加者 5 名
5.19 ISO9001 マネジメントレビュー
5.23 第 145 回体外受精教室 参加者 40 名 参加<矢野、足立小、越名、阿南、川村、岡田、井澤>
5.23 第 1 回第 3 期・第 4 期・第 5 期合同オリーブの会 参加者 4 名
5.25 福井大学医学部(福井)医学科アドバンストコース
講義：「不妊症講座」(院長)
5.26 大分県立看護科学大学講義 参加<山路、工藤由、佐土原、越名、阿南、川村、工藤美、越光>
講義：「不妊症講座」(院長)
5.29 大分大学医学部附属病院 コサイゼイネ先生研修のためご来院(8月 15 日まで)
5.30 第 1 回 JISART 心理教育セミナー(東京) 参加<上野、院長>
5.30 第 2 回 JISART 事務教育セミナー(東京) 参加<足立小、越名>
5.30 第 2 回 JISART ラボ教育セミナー(東京) 参加<佐藤晶、城戸>
5.30 第 6 回 JISART 看護教育セミナー(東京) 参加<後藤裕、篠田>
5.30 第 27 回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
5.31 第 7 回 JISART シンポジウム(東京) 参加<足立小、越名、佐藤晶、城戸、後藤裕、篠田、上野>
シンポジウム：不妊治療における当院のこだわり
発表：「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性」(院長) (ASRM 受賞記念講演)
- 6.6 第 38 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 70 名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長> 参加<越名、阿南、深田、河野、後藤裕>
6.7 第 16 回セント・ルカセミナー
講師 森崇英先生<京都大学名誉教授、NPO 法人生殖再生医学アカデミア 理事長>
「生殖再生医学—生殖幹細胞の分化誘導と生命倫理—」
講師 佐藤英明先生<東北大学大学院農学研究科 教授>
「アニマルテクノロジーの現在と未来」
指定発言 田中温先生<セントマザー産婦人科医院 院長>
「老化卵子の治療～核置換～」
講師 有馬隆博先生<東北大学未来医工学治療開発センター 准教授>
「エピゲノム解析技術を応用したヒト生殖医療へのアプローチ
—ART の安全性評価について—」
講師 荒木康久先生<高度生殖医療技術研究所 所長>
「臨床とラボ業務から学ぶこと」
講師 岡本祐子先生<広島大学大学院教育学研究科心理学講座臨床心理学研究室 教授>
「子どもに恵まれないことの心理臨床「予期せぬ人生の危機」をどう受けとめるか」
講師 辻英美先生<NPO 法人 Fine ~現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～Fine 認定ピア・カウンセラー>
「不妊と向き合うために必要な力 ~Fine ピア・カウンセラーの活動から～」
(プログラム順)

行事一覧(4)

2009	6. 8	高度生殖医療技術研究所(群馬)所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
	6. 9	第 123 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
	6.10	NPO 法人 Fine 主催 不妊治療に関する「国会集会」(東京) 参加<工藤由、院長>
	6.12	セント・ルカセミナー打上げ
	6.13	第 146 回体外受精教室 参加者 35 名 参加<別所、川村、井澤、斎高>
	6.14	平成 21 年度日本産科婦人科学会大分地方部会・大分県産婦人科医会総会(大分) 参加<西郡、足立小、越名> 発表 :「当院の不妊治療の現状」(院長)
	6.15	大分大学医学部附属病院 津末初美先生研修のためご来院(～6 月 27 日まで)
	6.16	院内全体研修 : 人間関係の基礎Ⅲ(担当 : 心理専門相談室)
	6.17	第 195 回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<山路、平松、工藤由、足立小、長木、阿南、川村、井澤、松元、足立直、斎高、関、後藤裕、篠田、指山、院長>
	6.17	ライカ エンブリオロジストのための顕微鏡ベーシック講座(福岡) 参加<佐藤晶、城戸>
	6.18	東京大学(東京)産婦人科 吉野修先生、技術補佐員 渡辺裕子先生、周産母子診療部 医療技術職員 大井なぎさ先生 胚呼吸量測定装置研修のためご来院
	6.24	日医標準レセプトソフト ORCA と電子カルテ ANNYYS 展示説明会(大分) 参加<山路、工藤由、佐土原、越名>
	6.25	ISO9001 勉強会 日本エム・エム・シー 田中繁充氏ご来院
	6.25	日医標準レセプトソフト ORCA と電子カルテ ANNYYS 展示説明会(大分) 参加<平松、西郡、足立小>
	6.27	第 21 回大分内視鏡外科研究会(大分) 参加<熊迫、篠田> 発表 :「卵管采の大きさ、卵管口の位置と妊娠について」(院長)
7. 1		新職員 兵頭美紀さん(看護部)
7. 4		第 1 回 2009 年度(第 3 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<関>
7. 5		茨城県不妊専門相談センター事業 市民公開講座(茨城) 講演 :「赤ちゃんがやってくる～はやく気づいて！不妊症～」(院長)
7. 5		第 17 回茨城不妊臨床懇話会(茨城) 講演 :「ART と流産」(院長)
7. 7		第 124 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
7. 7		院内全体研修 : 接遇に関する勉強会「電話対応」(担当 : 教育・推進委員会)
7.11		第 41 回新患教室 参加者 75 名 参加<後藤香、川村、足立直、後藤裕、指山>
7.12		JISART 施設認定審査 審査員<上野、院長>
7.14		院内全体研修(安全管理研修) : カルテの取り扱いについて(担当 : 受付)
7.18		第 147 回体外受精教室 参加者 42 名 参加<川村、井澤、二宮>
7.18		第 1 回第 6 期オリーブの会 参加者 5 名
7.20		JISART 会議(東京) 参加<院長>
7.26		第 8 回生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加<佐藤晶、長木> Session4 : 鈴木セミナー&ディスカッション「ART の安全性について」座長 : 院長
8. 1		第 42 回新患教室 参加者 55 名 参加<長木、深田、足立直、後藤裕、指山>
8. 1		第 11 回第 5 期オリーブの会 参加者 4 名
8. 4		院内全体研修 : 地震・停電避難訓練(担当 : 看護部)

行事一覧(5)

- 2009 8. 6 第 27 回日本受精着床学会総会・学術講演会(京都) 参加<後藤裕>
一般演題「カウンセリング」座長：院長
ランチョンセミナー4 「ARTにおける至適卵巣刺激法の選択」座長：院長
発表：「ヒト未熟卵体外成熟培養(IVM)の妊娠率と出生児のメチル化インプリントの評価」
(佐藤晶子)
「精子頭部の空胞と精子 DNA 断片化に関する検討」(城戸京子)
(世界体外受精会議記念賞候補演題)
「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への
臨床的有用性」(熊迫陽子)
「ART 施設におけるサポートグループの看護師の役割
～40 歳以上の高齢患者を対象に～」(松元恵利子)
「治療継続のサポートのあり方」～初診時から半年以内～」(関こずえ)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～「治療終結を決意した元患者を囲む会」の語りから～」(上野桂子)
「非配偶者間生殖医療(エッグシェアリング)についての意識調査
(JISART アンケートより)」(院長)
8. 6 第 28 回 JISART 理事会(京都) 参加<院長>
8. 7 これからゴナドトロピン製剤在宅自己注射
－日本産科婦人科学会による留意事項整備を迎へ、今後に向けての座談会－(京都)
参加<院長>
8. 7 日本生殖医療心理カウンセリング学会役員会(京都) 参加<上野、院長>
8. 11 第 125 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
8. 13 IVF 大阪(大阪)新クリニック見学 参加<院長>
8. 22 第 148 回体外受精教室 参加者 61 名 参加<岡田、二宮>
8. 22 第 2 回第 6 期オリーブの会 参加者 7 名
8. 22 診療所向け電子カルテ選定・導入講座(福岡) 参加<工藤由、西郡、越名>
8. 29 第 39 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 90 名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、平松、西郡、川村、深田、足立直、後藤裕>
8. 29 第 16 回臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加<城戸、大津>
9. 1 新職員 上寺美津代さん(看護部)
9. 2 大分県臨床心理士会定例研修会(大分)
発表：「生殖医療現場における臨床心理士の活動」(上野桂子)
9. 3 第 49 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(高知) 参加<熊迫、二宮>
発表：「卵管采の大きさ、卵管口の位置と妊娠について」(院長)
9. 5 第 40 回ガーネットサークル OG1 名、参加者 4 名
9. 5 第 2 回 2009 年度(第 3 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<関>
9. 10 大分県看護協会主催 新人のための研修「リスクマネジメント」「感染予防」(大分)
参加<川村、井澤>
9. 10 医療ガス保安講習会(大分) 参加<斎高、赤嶺>
9. 12 第 149 回体外受精教室 参加者 29 名 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、上寺、
岡田、井澤、二宮>
9. 12 第 3 回第 6 期オリーブの会 参加者 7 名
9. 12 大分放送(OBS)「経営ナビ」出演 <院長>
9. 14 大分大学医学部附属病院 山内美佳先生研修のためご来院(～9 月 19 日まで)
9. 15 第 126 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
9. 17 JISART 打合せ(東京) 参加<院長>

行事一覧(6)

- 2009 9.18 新型インフルエンザの基礎知識と対策(大分)
参加<工藤由、矢野、後藤香、河野、篠田、指山>
- 9.20 日本心理臨床学会 第28回秋季大会(東京)
自主シンポジウム『生殖医療領域における心理職の存在意義～医療スタッフ・患者の期待にどう応えるか～』:「臨床心理士が不妊治療専門施設でできること」(上野桂子)
- 9.24 日本人類遺伝学会 第54回大会(東京) 参加<城戸、大津>
- 9.24 診療所等看護職員研修会「診療所・施設での感染対策について」(大分) 参加<後藤裕>
- 9.25 第9回セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員: 上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、
緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師)
- (五十音順)
- 9.26 第46回九州首市医師会連絡協議会(熊本) 参加<院長>
- 9.26 第3回2009年度(第3期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<関>
- 9.26 診療所向け電子カルテ選定導入講座(福岡) 参加<平松、佐土原、足立小>
- 9.28 英ウィメンズクリニック(兵庫)培養士 橋本洋美先生、水田真平先生、片田雅也先生
胚呼吸量測定装置見学のためご来院
- 9.29 福岡山王病院(福岡)施設見学 参加<工藤由、越名、熊迫、篠田、後藤裕、河邊、院長>
- 10.1 新職員 相澤奈津枝さん(看護部)
- 10.2 第30回大分市医師会産婦人科~内分泌・不妊・代謝~懇話会 参加<山路、平松、佐土原、西郡、足立小、越名、佐藤晶、後藤香、大津、上寺、川村、深田、井澤、松元、斎高、関、後藤裕、指山、上野、河邊、院長>
「胎盤トロフォブラストーその多彩な機能ー」
(広島大学大学院医歯薬学総合研究科産科婦人科学 教授 工藤美樹先生)
- 10.3 第43回新患教室 参加者69名 参加<城戸、上寺、深田、足立直、後藤裕、指山>
- 10.3 第4回第6期オリーブの会 参加者5名
- 10.6 福岡山王病院(福岡)施設見学 参加<河邊、院長>
- 10.9 株式会社バズラボ『ジネコ』特別対談「不妊治療の現場から」:
セントマザー産婦人科医院(北九州) 院長 田中温先生と対談(北九州) <院長>
- 10.10 第150回体外受精教室 参加者48名 参加<相澤、岡田、井澤、二宮>
- 10.10 日本生殖医療心理カウンセリング学会認定 生殖心理カウンセラー継続研修(福島)
参加<上野>
- 10.11 日本生殖医療心理カウンセリング学会認定 不妊相談士(不妊コンサルタント)継続研修(福島)
参加<小池、城戸>
- 10.13 第127回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 10.17 65th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine(Atlanta) 参加<佐藤晶>
ポスター発表: 「Infertility Patients' Mental Health Condition Using the Cornell Medical Index
(CMI)」(篠田多加子)
「Clinical efficacy of a novel evaluation method with measurement of embryo respiration activity using a scanning electrochemical microscopy」(院長)
- 10.17 日本哺乳動物卵子学会主催 生殖補助医療胚培養士セミナー(東京) 参加<小池、城戸、長木>
- 10.19 新Server導入 OS: Microsoft Windows Server 2008 データベース: Oracle11g
- 10.19 データバックアップシステム導入
ソフト: ACRONIS 社 True Image Eco Server For Windows
- 10.25 第3回2009年度(第5期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 講師<上野>
- 10.27 西別府病院遺伝医学セミナー(別府) 参加<佐藤晶、城戸、大津>
- 10.31 第2回第3期・第4期・第5期合同オリーブの会 参加者3名
- 11.2 新職員 甲斐智子さん(看護部)、手島しおりさん(看護部)

行事一覧(7)

- 2009 11. 4 平成 21 年度医事紛争講演会(大分) 参加<足立小、二宮、院長>
11. 7 第 151 回体外受精教室 参加者 37 名 参加<手島、上寺、岡田、井澤、二宮>
11. 8 第 72 回大分県医学会特別講演会(大分) 参加<別所、佐土原、西郡、小池、佐藤晶、赤嶺、関、院長>
11.10 福岡山王病院(福岡)手術見学 参加<越光、関、河邊、院長>
11.14 第 40 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 55 名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<平松、佐土原、後藤香、手島、相澤、深田、足立直、後藤裕>
11.15 第 6 回大分県母性衛生学会学術集会 参加<相澤、川村、河野、二宮、斎高、赤嶺、後藤裕、
指山、上野>
発表：「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
「不妊治療施設におけるサポートグループの看護師の役割
～40 歳以上の高齢患者を対象に～」(松元恵利子)
11.17 院内全体研修：敬語の基礎(担当：受付)
11.19 第 40 回大分市医師会医学会 参加<山路、平松、西郡、足立小、越名、小池、佐藤晶、
熊迫、手島、足立直、二宮、河野、越光、斎高、関、篠田、上野、指山、院長>
発表：「精子 DNA 損傷と妊娠について」(城戸京子)
「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
「不妊治療施設におけるサポートグループの看護師の役割
～40 歳以上の高齢患者を対象に～」(松元恵利子)
11.20 大分県看護協会主催ジェネラリストのための研修(I)「災害看護」(大分) 参加<岡田、越光>
11.20 曽根崎産婦人科(大分)へ予約システム見学のため訪問 参加<平松、佐土原、越名>
11.22 第 54 回日本生殖医学学会総会・学術講演会(石川)
シンポジウム I 「癌患者と生殖医療」座長：院長
発表：「ヒト未熟卵体外成熟培養(IVM)の妊娠率と出生児のメチル化インプリントの評価」
(佐藤晶子)
「精子頭部の空胞と精子 DNA 断片化に関する検討」(城戸京子)
「選択的単一胚移植(eSET)において移植胚選別困難例に対する呼吸量測定の有用性」
(後藤香里)
「ART 施設におけるサポートグループの看護師の役割
～40 歳以上の高齢患者を対象に～」(松元恵利子)
「治療継続のサポートのあり方」～初診時から半年以内～」(関こずえ)
「不妊治療施設における看護部のインシデントレポート」(後藤裕子)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～「治療終結を決意した元患者を囲む会」の語りから～」(上野桂子)
11.22 第 54 回日本生殖医学学会総会・学術講演会(石川)SarahBase ブース展示 <山路、工藤由>
11.24 第 128 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
11.24 指山実千代看護師長退職の会
11.27 福岡山王病院(福岡)産婦人科医師 宮原明子先生、胚培養士 江頭由佳子先生
院内見学のためご来院
11.28 第 5 回第 6 期オリーブの会 参加者 6 名
11.28 第 29 回 JISART 理事会(鳥取) 参加<院長>
12. 1 ISO9001 マネジメントレビュー
12. 5 第 44 回新患教室 参加者 29 名 参加<熊迫、手島、相澤、足立直、後藤裕、指山>
12. 5 卵巣に関する国際カンファレンス 2009(東京) 参加<小池、大津>
12. 8 第 129 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院

行事一覧(8)

- 2009 12.10 大分県立看護科学大学講義 参加<山路、平松、矢野、西郡、大津、手島、相澤、上寺、川村、後藤裕>
講義：「不妊症講座」(院長)
「不妊治療と看護－患者の心理とケア・サポートー」(上野桂子)
- 12.12 第 152 回体外受精教室 参加者 40 名 参加<手島、井澤、二宮>
- 12.12 忘年会
- 12.18 除クリニック(兵庫)SarahBase デモンストレーション <山路、工藤由>
- 12.19 IVF 大阪(大阪)新クリニック内覧会 参加<河邊、院長>
- 12.19 第 4 回 2009 年度(第 3 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<関>
- 12.24 クリスマス会
- 2010 1.5 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
- 1.8 河邊外来《診療内容：一般不妊治療(再診のみ)・更年期・婦人科・思春期》開始
- 1.8 株式会社バズラボ『ジネコ』取材
- 1.9 第 45 回新患教室 参加者 60 名 参加<佐藤、手島、深田、足立直、後藤裕、上野>
- 1.12 第 130 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 1.16 第 153 回体外受精教室 参加者 46 名 参加<岡田、井澤、二宮>
- 1.16 第 6 回第 6 期オリーブの会 参加者 7 名
- 1.18 新職員 池田香澄さん(看護部)
- 1.19 大分県地域保健支援センター(大分)参与 谷口一郎先生ご講演のためご来院
ご講演：「子宮頸がんの病態と HPV ワクチン」
- 1.19 ISO9001 内部監査キックオフミーティング
- 1.21 院内全体研修：防災訓練「緊急連絡網の確認」(担当：培養室・検査室)
- 1.23 非配偶者間フォローアップ部会打合せ会議(東京) 参加<上野>
- 1.24 第 7 回日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(東京) 参加<小池、城戸、後藤裕、指山、院長>
発表：「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～「治療終結を決意した元患者を囲む会」の語りから～」(上野桂子)
- 1.26 院内全体研修：言葉の乱れ 2(担当：受付)
- 1.30 第 41 回ガーネットサークル OG1 名、参加者 4 名
- 2.6 第 46 回新患教室 参加者 46 名 参加<大津、手島、深田、足立直、後藤裕、上野>
- 2.9 第 131 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 2.13 第 154 回体外受精教室 参加者 65 名 参加<岡田、井澤、二宮>
- 2.13 第 7 回第 6 期オリーブの会 参加者 5 名
- 2.13 第 5 回 2009 年度(第 3 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京)
講師<上野> 参加<関>
- 2.15 新職員 松吉律児さん(看護部)
- 2.20 第 13 回胎児遺伝子診断研究会(東京) 参加<城戸、大津、院長>
発表：「ヒト未熟卵体外成熟培養(IVM)の成績と出産時に採取した臍帯血の
メチル化インプリントの解析」(佐藤晶子)
- 2.21 日本生殖再生医学会 第 5 回学術集会(東京) 参加<城戸、院長>
発表：「ヒト人工多能性幹細胞(iPS)細胞のゲノムインプリントングの解析」(佐藤晶子)
「マウス卵子での加齢によるタンパクの変化」(大津英子)

行事一覧(9)

- 2010 2.23 第 101 回大分県周産期研究会 参加<山路、平松、工藤、佐土原、西郡、足立小、越名、城戸、大津、長木、松吉、相澤、川村、井澤、二宮、足立直、赤嶺、篠田、後藤裕、指山、上野、院長>
発表：「ヒト未熟卵体外成熟培養(IVM)の成績と出産時に採取した臍帯血の
メチル化インプリントの解析」(佐藤晶子)
「治療継続のサポートのあり方」～初診時から半年以内～」(関こずえ)
- 2.26 福岡山王病院(福岡)副院長 中村元一先生 腹腔鏡下子宮筋腫核出術手術指導のためご来院
- 2.27 第 30 回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
- 2.27 第 6 回 2009 年度(第 3 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<関>
- 2.28 JISART 審査員研修(東京) 参加<工藤、越名、後藤裕、院長>
3. 1 新職員 坂本順子さん(看護部)
3. 3 株式会社バズラボ『ジネコフリーマガジン夏号』取材
3. 5 日本経済新聞「不妊治療における経済的負担」電話取材
3. 6 第 8 回第 6 期オリーブの会 参加者 6 名
3. 6 金沢医科大学生殖周産期医学(石川) 富澤英樹先生研究のためご来院
3. 9 第 132 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 3.13 第 41 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 84 名
講師<後藤裕(看護副師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、西郡、足立小、長木、坂本、手島、相澤、深田、足立直、指山>
- 3.18 診療報酬改正に伴う県下一斎説明会(大分) 参加<佐土原、西郡、足立小、越名>
- 3.20 第三者の関わる生殖技術について考える会立ち上げ集会(東京)
参加<篠田、後藤裕、上野、院長>
- 3.24 株式会社メディエンス 代表取締役社長 池上文尋氏
オールアバウトジャパン不妊治療ガイド 取材のためご来院
- 3.26 平成 22 年 4 月法令改正 窓口対応ソフト変更説明会(大分) 参加<足立小、越名>
- 3.27 第 155 回体外受精教室 参加者 63 名 参加<坂本、手島、井澤、二宮>
- 3.27 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
- 3.30 院内全体研修：心肺蘇生法および AED の講習会(担当：研究室・培養室)
講師：救命士 二宮良治先生、曾宮尚文先生
4. 女性のための健康生活マガジン『ジネコ』Jineko.net／春号(Vol.5)記事掲載
4. 1 新職員 金子奈央さん(研究室・培養室)
4. 1 日本生殖医療心理カウンセリング学会 不妊相談士(不妊コンサルタント)認定
<看護部：関こずえ>
4. 2 第 31 回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 参加<山路、平松、工藤、
佐土原、西郡、足立小、越名、金子、佐藤、城戸、後藤香、熊迫、大津、手島、川村、井澤、
二宮、松元、足立直、齊高、赤嶺、越光、関、指山、上野、河邊>
「PGD and Epigenetics in reproduction」(院長)
「喫煙と健康障害」(大分労働衛生管理センター 所長 宮川勇生先生)
4. 3 第 47 回新患教室 参加者 65 名 参加<金子、佐藤、坂本、相澤、川村、深田、後藤裕、
足立直>
4. 6 福岡山王病院(福岡)手術見学 参加<越光、関、河邊、院長>
4. 9 3rd Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction(Thailand)
講演：「Epigenetics in reproduction」(院長)
ポスター発表：「The Evaluation of the pregnancy rate and of DNA methylation status of
children that were born by In Vitro Maturation」(佐藤晶子)
「Clinical efficacy of a novel evaluation method with measurement of the embryo
oxygen consumption rate using a scanning electrochemical microscopy」(熊迫陽子)
4. 9 第 3 回別府遺伝医学セミナー(別府) 参加<城戸、大津>

行事一覧(10)

- 2010 4.17 第9回第6期オリーブの会 参加者3名
4.17 日本哺乳動物卵子学会常任理事会(東京) 参加<院長>
4.20 新職員 油野亜由美さん(厨房)
4.20 院内全体研修:統計解析について(担当:情報処理室)
4.21 内閣府特命担当大臣 福島みづほ議員へ不妊治療費助成金制度の条件撤廃に関する陳情書提出(東京) 参加<院長>
4.24 第156回体外受精教室 参加者58名 参加<金子、坂本、手島、井澤、二宮>
4.24 第6回ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者6名
4.24 JISART 非配偶者間生殖医療委員会(福岡) 参加<院長>
4.27 第133回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
4.27 第10回セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員:上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、
緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師)
(五十音順)
- 5.1 新職員 山下久美さん(看護部)
5.1 第48回新患教室 参加者50名 参加<金子、後藤香、山下、坂本、手島、足立直、関>
5.8 第6回九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加<深田、井澤、越光、篠田、河邊>
発表:「拳児希望患者に対する Laparoscopic myomectomy(LM)と
2nd look laparoscopy(2nd)の所見について」(院長)
- 5.9 第67回日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<越光、篠田、上野>
第1群「心理・看護」座長:院長
発表:「移植胚選別困難例における胚呼吸量測定の有用性」(後藤香里)
「当院におけるIVM 培養と臨床成績について」(熊迫陽子)
「近親者の妊娠を知った不妊患者の心情」(深田留美)
「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
「当院の卵巣過剰刺激症候群(OHSS)回避への対策」(院長)
- 5.11 第134回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5.15 第157回体外受精教室
5.15 第10回第6期オリーブの会
5.19 大分県立看護科学大学(大分)講義
講義:「不妊症講座」(院長)
5.22 第2回JISART 心理教育セミナー(宮城) 参加<上野>
5.22 第3回JISART 事務教育セミナー(宮城) 参加<西郡、越名>
5.22 第3回JISART ラボ教育セミナー(宮城) 参加<佐藤、熊迫>
5.22 第7回JISART 看護教育セミナー(宮城) 参加<後藤裕、河野>
5.22 第31回JISART 理事会(宮城) 参加<院長>
5.23 第8回JISART シンポジウム(宮城) 参加<西郡、越名、佐藤、熊迫、後藤裕、河野、上野、
院長>
5.25 ISO9001マネジメントレビュー
5.29 第42回ガーネットサークル
5.29 第51回日本哺乳動物卵子学会(新潟)
一般演題第1群「卵成熟・ICSI(1)」座長:院長
発表:「選択的単一胚移植(e-SET)におけるday3 胚の呼吸量測定の試み」(小池恵)
「マウス卵子での加齢によるタンパクの変化」(大津英子)
6.2 株式会社バズラボ『ジネコフリーマガジン秋号』取材

行事一覧(11)

- 2010 6.6 第 17 回セント・ルカセミナー
講師 松本亜樹子先生<NPO 法人 Fine ~現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会~代表>
「不妊治療患者の負担を考える~当事者のアンケートから~」
講師 村瀬嘉代子先生<北翔大学大学院 人間福祉学研究科 教授>
「「いのち」を受けとめるということ」
講師 森崇英先生<京都大学名誉教授、NPO 法人生殖再生医学アカデミア 理事長>
「着床不全」
講師 有馬隆博先生<東北大学未来医工学治療開発センター 准教授>
「生殖補助医療とインプリントィング異常(仮)」
講師 荒木康久先生<高度生殖医療技術研究所 所長>
「未成熟精子細胞は、どこまで ART に有効か」
講師 大月純子先生<永井クリニック 体外受精室長>
「培養成績を上げる為に考えるべきことー最近の発見:真性半陰陽が起る原因」
講師 山縣一夫先生<理化学研究所神戸研究所 発生・再生科学総合研究センター>
「ライブセルイメージングを用いた哺乳動物初期胚のクオリティー評価」
(プログラム順)
- 6.8 第 135 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 6.13 JISART 施設認定審査 審査員<後藤裕、上野>
- 6.27 26th ANNUAL MEETING ESHRE 2010(Italy) 参加予定<城戸>
ポスター発表 :「Infertility patient's mental health condition using the Cornell Medical Index」
(後藤裕子／指山実千代)
「Measurement of oxygen consumption rate of embryos
to select the best embryo for e-set」(院長)
- 7.3 第三者の関わる生殖技術について考える会勉強会(東京) 講師<院長> 参加予定<上野>
- 7.4 日本産科婦人科学会『生殖医療に関する遺伝カウンセリング受け入れ可能な臨床遺伝専門医』
認定講習会(東京) 参加予定<城戸、大津、院長>
- 7.10 JISART 非配偶者間生殖医療に関するカウンセラーアンダーリサーチ(大阪) 講師<上野>
参加予定<院長>
- 7.24 第 42 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
講師<篠田(看護副師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
- 7.25 JISART 施設認定審査 審査員<院長>
- 7.28 第 28 回日本受精着床学会総会・学術講演会(神奈川) 参加予定
シンポジウム講演 :「生殖医療と周産期医療との和協」(院長)
「IVM の変遷と現状、将来の展望」(院長)
発表 :「選択的単一胚移植(eSET)において移植胚選択に迷う症例での胚呼吸量測定の有用性」
(後藤香里)
- 「当院における IVM 培養と臨床成績について」(熊迫陽子)
「近親者の妊娠を知った不妊患者の心情」(深田留美)
「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
「ART 施設における 40 歳以上の患者を対象とした
サポート・グループの取り組みについて」(篠田多加子)
- 7.29 第 50 回日本産科婦人科内視鏡学会(東京) 参加予定
発表 :「拳児希望患者に対する Laparoscopic myomectomy(LM)と
2nd look laparoscopy(2nd)の所見について」(院長)
- 7.31 The 3rd World Congress on Mild Approaches in Assisted Reproduction(東京) 参加予定
- 9.18 第 13 回日本 IVF 学会(大阪) 参加予定
シンポジウム講演 :「ART における排卵誘発一卵巣予備能」(院長)

論文一覧

- 2009 「ロバートソン転座保因者における着床前診断」(大津英子)
日本受精着床学会雑誌 26(1) : 320-322, 2009
- 「Chromosome analysis of human refrozen embryos following fluorescence in situ hybridization」
(大津英子) Reprod Med Biol, 8(3) : 103-106, 2009
- 「The Efficacy of the Transfer of Twice Frozen-Thawed Embryos with Vitrification Method」
(熊迫陽子) Fertility and Sterility, 91(2) : 383-386, 2009
- 2010 「Benefit of measuring embryo oxygen consumption for increasing pregnancy rate」(院長)
(投稿準備中)
- 「電気化学的呼吸計測技術におけるヒト胚クオリティー評価と安全性」(後藤香里)
日本受精着床学会雑誌 27(1) : 53-58, 2010

著書(共著)一覧

- 2009 「生殖補助医療における多胎妊娠とその予防」(院長)『Pharma Medica』第27巻5号
(メディカルレビュー社)
- 「PGD」(院長)『産婦人科の実際 不妊治療ハンドブック』第58巻11号(金原出版)
- 2010 「ヒト胚のクオリティー評価」(院長)『卵子学 Oocyteology』(京都大学学術出版会)(掲載予定)
- 「ヒト卵管液の組成」(院長)『生命の誕生に向けて<第二版>
—生殖補助医療(ART)胚培養の理論と実際』(近代出版)(掲載予定)
- 「選択的単一胚移植(eSET)において移植胚選別困難例に対する呼吸量測定の有用性」(後藤香里)
『産婦人科の実際』(金原出版)(掲載予定)
- 「精子頭部の空胞と精子DNA断片化に関する検討」(城戸京子)『産婦人科の実際』(金原出版)
(掲載予定)

院內活動

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー

開催頻度：1回／1年

セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、毎年国内外から、著名な先生方をお招きし、当院多目的ホールにてシンポジウムを行っている。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演から胚培養士の話題や、臨床心理士やピアカウンセラーによる心のお話等多岐に渡る内容で喜ばれている。セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院で行っている。

2009年参加人数：71名

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

開催頻度：1回／3ヶ月

(不妊検査・治療についての説明会。これから治療を受けようとされている方や、初診後間もない患者さんが対象)

広く不妊治療を知つてもらう目的で、3ヶ月に1度院外の会場で行い、参加者が、ゆったり、リラックスしていただけるように、コーヒーとケーキを用意している。スライドを多用し、院長が1時間程詳しく説明をした後、不妊治療に協力的な泌尿器科の医師に、男性不妊の治療説明などをしていただいている。2005年からは臨床心理士(生殖心理カウンセラー)による心のお話、2006年からは看護師による治療内容等の説明も行っている。当院OG(当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方)のお話も30分程聞く事ができる。OG自身の治療歴から始まり、治療中に立ちはだかる大きな壁をどうやって越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者さんの気持ちで参加者にお話ができるため好評である。

2009年参加のべ人数：260名

ガーネットサークル

開催頻度：1回／3ヶ月

(治療中の患者さんが、治療・妊娠・出産経験者から直接お話を聞いて、質問ができる会)

当院で治療し、出産へと至った方にお願いをして、現在治療中の患者さんとの交流の場を設けている。テーマはその都度異なっているが、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるよう心がけている。経験者の話を聞く事により、患者さんの視野を広げ、悩んでいるのは自分ひとりではないのだということの再認識もできる貴重な会である。

サークル名の由来は、ガーネットの和名「ざくろ石」からきている。ざくろは風水では子宝に恵まれるという意味を持っているので、全ての患者さんが子宝に恵まれる事を祈って、ガーネットサークルと名づけた。

2009年参加のべ人数：17名

オリーブの会(第1～6期)

開催頻度：1回／1ヶ月～2ヶ月

(体外受精をしている40歳以上の患者さんの集い)

治療を進めていく上で、焦りやストレスを感じている不妊患者さんが多い。その上、治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんも近年増加している。このような患者さんへのサポートの必要性を感じ、2001年に第1期が立ち上げられた。臨床心理士と看護師を交えてお茶を楽しみながらリラックスした自由な話し合いの場を設けている。現在、第3期～第6期が活動中である。

2009年参加のべ人数：49名

ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会

開催頻度：1回／1年

以前不妊治療をしていた方(現在はご夫婦だけの生活を選ばれた方)に、現在、不妊治療をしている患者さんに対して、当時の治療や現在の生活についてのお話をしていただく会を2004年から開催している。いつ、どのような形で治療を終結するかという、患者さんにとって大変困難な問題について、体験者の話を聴き、話し合いながら考えることのできる場となっている。

2009年参加のべ人数：9名

体外受精教室

開催頻度：1回／1ヶ月

(ARTにすすむ患者さんへの説明会)

初めて体外受精を受けられる患者さん向けに、体外受精の治療過程や、体外受精前後の体の変化など、院長が約4時間程度かけて分かりやすく説明している。スライドを使用し、写真や画像を多用することにより、より分かりやすい内容となっている。ほとんどの患者さんがご夫婦で参加されるため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考える事ができ、その後の治療にも役立っている。

2009年参加のべ人数：539名

新患教室

開催頻度：1回／1ヶ月

(主として初診から1ヶ月以内の患者さんが対象)

当院の多目的ホールにて、院長が3時間程初診時の検査から体外受精までを詳しく説明している。2006年からは看護師によるお話、2009年からは臨床心理士(生殖心理カウンセラー)、胚培養士によるお話も行っている。早い時期に夫婦で参加する為、治療の理解が深まり、その後の治療にも役立っている。

2009年参加のべ人数：441名

新患オリエンテーション

開催頻度：初診時

初診時、診察終了後に専門の教育を受けた看護スタッフが行っている。写真や資料を使い、1時間程かけて、患者さんへ病状説明、今後の治療のすすみ方や費用面の説明をしている。

院長相談

開催頻度：毎週月・水・金の18:00～(予約制)

普段の診療で聞けなかった事や、なんとなく疑問に思っていることを、他の患者さんを気にすることなく院長に相談できる。理解できるまで、分かりやすく説明が聞けるので、患者さんに好評である。

心理専門相談室

開催頻度：毎週火・金・土の午前中(予約制)

2001年より、専門の臨床心理士(生殖心理カウンセラー)による、きめ細やかな相談業務が行われている。患者さんが抱える深刻な悩みを、幅広く受け止められるよう努めている。

なんでも相談

看護部

開催頻度：月・水・金の14:00～(予約制)

(看護師による相談)

不妊という悩みを抱えた患者さんを支える為に専門の教育を受けた看護スタッフにより行われている。患者さんが抱えているストレスや悩み、治療についての質問など、なんでも相談できる場として設けている。

培養室

開催頻度：毎日11:00～12:00(予約制)

(胚培養士資格保持者による相談)

精液検査、IUI(選別精子子宮内注入法)、精子凍結、胚凍結、体外受精に関する質問を相談できる場として設けている。

院内研修

開催頻度：毎週火曜日午後

毎週火曜日の午後、4時間程かけて、職員全員を集めての院内研修およびミーティングを行っている。研究室・培養室より、研究結果の発表や海外論文詳読、各部署より医療過誤につながりうる可能性のあったヒヤリ・ハットを報告し、今後の為に協議する安全管理委員会報告や、その週に治療を受ける患者さんについての治療方針などを話し合っている。

このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、個人個人の考えを述べる機会を作っている。

培養室朝ミーティング

開催頻度：毎朝 20 分程度

培養室で職員と院長が培養中の胚の観察結果報告や、当日行われる採卵予定患者さんの検査結果報告、胚移植予定者報告を行っている。また、個人が担当している研究の途中経過報告や新しい研究の提案など活発な意見交換も行われている。

培養室ミーティング

開催頻度：月 2 回午後半日

培養室の職員全員で、日常業務や各々の研究テーマ、基礎知識に関する勉強会を行ったり、SarahBase を用いたデータ整理に関する検討を行っている。

その他

開催頻度：隨時

外来相談係(看護部)

治療に関する質問や、今後の治療内容についての説明など、15 分程度の相談を面談方式で行っている。

腹腔鏡検査前の説明(看護部)：個別説明

手術前検査終了後、腹腔鏡検査を受けられる患者さんへの説明。

開腹手術前の説明(看護部)：個別説明

手術前検査終了後、開腹手術を受けられる患者さんへの説明。

手術前説明(院長)：個別説明

手術の内容と進め方についての説明。

手術後説明(院長)：個別説明

手術時のビデオを見ながら、手術内容や予後の説明、今後の治療方針等の説明。

ART 結果説明(1)

(培養室：胚培養士資格保持者)：個別説明

胚移植直前に、その周期での卵子、精子の状態や、培養した胚等の説明。

ART 結果説明(2) (看護部)：個別説明

妊娠判定チェック時に、判定結果についての説明のほか、陰性反応の場合は精神的サポートを行う。

ART 結果説明(3)

(培養室：胚培養士資格保持者)：個別説明

採卵や凍結胚融解後、移植できなかった場合に、その周期の卵子、精子、胚の状態や、移植できなかつた理由等の説明。

スタッフ配置

院長 宇津宮隆史

医局 河邊史子、宇津宮由布子

研究室・培養室

** 大津英子、* 長木美幸、* 熊迫陽子、* 後藤香里、*,◎ 城戸京子、
* 佐藤晶子、*,◎ 小池 恵、金子奈央

看護部

篠田多加子、関こずえ、越光直子、河野絢子、

赤嶺佳枝、斉高美穂、二宮 瞳、松元恵利子、足立直美、

◎ 後藤裕子、井澤里砂、深田留美、岡田清美、川村智恵、

相澤奈津枝、手島しおり、坂本順子、山下久美

指山実千代(看護部顧問)

心理専門相談室

上野桂子(臨床心理士・生殖心理カウンセラー)

総務部

宇津宮富美子

受付

越名久美、足立小百合、西郡朝美、佐土原香織

情報処理室

工藤由香、平松里美、山路美和

厨房

矢野千恵美、別所かおり、油野亜由美

**:日本哺乳動物卵子学会および日本生殖医学会認定
生殖補助医療管理胚培養士

*:日本哺乳動物卵子学会認定生殖補助医療胚培養士

◎:日本生殖医療心理カウンセリング学会認定不妊相談士

病院概要

名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所																										
開設年月日	1992 年 6 月 3 日																										
住 所	〒870-0947 大分市津守富岡 5 組(2011 年移転予定 大分駅南口より徒歩 2 分) TEL 097-568-6060 FAX 097-568-6299 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/ http://www.st-luke.jp/imode.htm (携帯電話用)																										
許可病床数	13 床																										
職 員 数	総数 42 名 <table><tbody><tr><td>常勤医</td><td>2 名</td><td>臨床心理士</td><td>1 名</td></tr><tr><td>非常勤医</td><td>1 名</td><td>総務部</td><td>1 名(兼任)</td></tr><tr><td>研究室・培養室</td><td>5 名</td><td>受付</td><td>4 名</td></tr><tr><td>検査室・培養室</td><td>3 名</td><td>情報処理室</td><td>3 名</td></tr><tr><td>看護師</td><td>13 名</td><td>調理士</td><td>3 名</td></tr><tr><td>准看護師</td><td>6 名</td><td>栄養士</td><td>1 名</td></tr></tbody></table>			常勤医	2 名	臨床心理士	1 名	非常勤医	1 名	総務部	1 名(兼任)	研究室・培養室	5 名	受付	4 名	検査室・培養室	3 名	情報処理室	3 名	看護師	13 名	調理士	3 名	准看護師	6 名	栄養士	1 名
常勤医	2 名	臨床心理士	1 名																								
非常勤医	1 名	総務部	1 名(兼任)																								
研究室・培養室	5 名	受付	4 名																								
検査室・培養室	3 名	情報処理室	3 名																								
看護師	13 名	調理士	3 名																								
准看護師	6 名	栄養士	1 名																								
診 療 時 間	月・水・金: 8:30~11:30 13:30~15:30 17:00~18:30(要予約) 火・木・土: 8:30~11:30 (祭日を除く)																										



<本年報の集計も SarahBase を用いました>

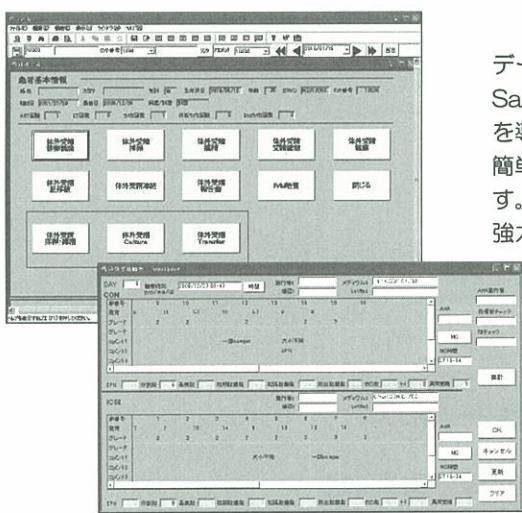
Sarah Base

臨床データ管理・医学統計解析ソフト
院内データ管理の強い味方です

Medical & Statistical Data Base Ver. 2.0
WindowsXP／Windows7対応予定

データ蓄積・集計になくてはならない偉大な味方の
SarahBaseがさらにパワーアップしました。タッチパネル
を導入することにより、データが発生した場所で初心者でも
簡単にデータ蓄積ができ、記帳する手間と時間を節約できま
す。さらに、各機能を強化することにより、ラボスタッフの
強力な味方になりました。詳細はお問い合わせください。

きっとご満足いただけるはずです。



- ・製品構成 SarahBase診療支援/データ排出/統計解析/項目管理作成ツール/
入力画面作成ツール/検査結果報告取込(オプション)/
レセコン頭書情報取込(オプション) レセコン診療情報取込(オプション)
生殖医学臨床実施成績一覧表の集計・印刷(オプション) /
新機能:データ入力チェック・簡易集計等のマクロ言語ツール(仮称)
備品類メンテナンスアラーム(オプション)
- ・動作環境CPU: Pentium II 350MHz以上(推奨Pentium III 450MHzクラス以上)
OS: Windows XP メモリ: 128MB以上 HD空き容量: 100MB以上

(有)メディテック・ルカ 〒870-0947 大分市津守富岡5組セント・ルカ産婦人科内
TEL/FAX (097)554-8567
E-mail mt-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

2009年度年報

2010年6月 発行

発 行： 医療法人セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集： 宇津宮 隆史
〒870-0947 大分市津守富岡5組
Tel 097-568-6060
Fax 097-568-6299
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

